

MODUS F11

MODUS F01

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

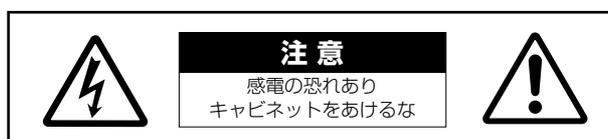
以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
---	---

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	--

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。この製品の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

必ず実行



電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。
他の電源コード/プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。

必ず実行



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

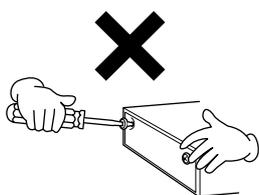
禁止

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。

禁止



水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

禁止

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

禁止

火に注意



本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

禁止

異常に気づいたら



電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

必ず実行

注意

電源 / 電源コード



(F11)
アースプラグを確実に取り付ける。
感電のおそれがあります。(アースプラグの取り付け方については14 ページをご参照ください。)

必ず実行



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

必ず実行



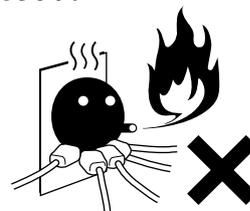
長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

必ず実行



たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

禁止



組み立て



必ず実行

組み立てる前に、必ず本書の組み立て方の説明をよくお読みください。
手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



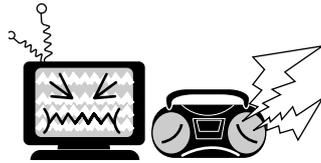
禁止

直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



禁止

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。
楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

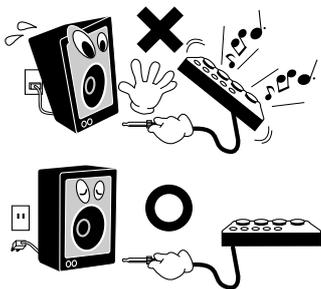
この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。
感電または機器の損傷の原因になります。



手入れ



必ず実行

（艶出し仕上げのモデルの場合）本体のほこりや汚れは、柔らかい布で軽く拭き取る。
強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。



禁止

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。

使用時の注意



禁止

キーカバーで指などをはさまないように注意する。また、キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



禁止

本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。



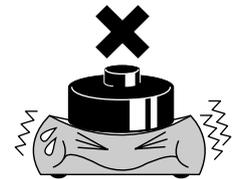
禁止

（艶出し仕上げのモデルの場合）本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てない。
表面にひびが入ったり、剥がれたりする場合があります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



イス



禁止

不安定な場所に置かない。
イスが転倒して、お客様や他の方々がけがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。
イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



必ず実行

イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意する。
イスの脚でフローリングの床やたたみを傷つけることがあります。イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。



禁止

イスを手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
変色/変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。

データの保存

作成したデータの保存とバックアップ



必ず実行

一部のデータは、本体内部のメモリーに保存されます(52、55ページ)。電源を切っても消えずに残ります。本体に保存されたデータの万一の事故に備えて、大切なデータはバックアップとしてUSBフラッシュメモリー(F11)またはコンピューター(F01)に保存することをおすすめします(53、55ページ)。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

* F11は、JIS C 61000-3-2に適合しています。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このたびは、ヤマハデジタルピアノ F11/F01 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。F11/F01 の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

取扱説明書について

この取扱説明書は、以下のように構成されています。

本書

- 準備** 最初にお読みください。
- 編** F11/F01 の使い方を詳しく説明しています。
- 録** 「音色一覧」などの資料を掲載しています。

クイックオペレーションガイド

ボタンや鍵盤に割り当てられた機能の操作を詳しく説明しています。

データリスト

XG 音色 / XG エフェクト (F11) や MIDI に関する資料が、ヤマハのウェブサイトからダウンロードできます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名 (「F11」など) を入力して「検索」ボタンを押します。

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

表記上の決まり

[] パネル上にあるボタン類を示します。たとえば、ボリュームのスライダーは、文章中で **[VOLUME]** スライダーと表記します。

- ※ パネルのイラストは、F11 を使用しています。
- ※ この取扱説明書に掲載されているイラストやディスプレイは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

この製品は、ヤマハ (株) が著作権を有する著作物やヤマハ (株) が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ (株) の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

この製品には、XG フォーマット以外の音楽 / サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ (音楽 / サウンドデータ) 制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。

ヤマハ (株) および第三者から販売もしくは提供されている音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

AVE-TCP F11はTCP/IPプロトコルスタック技術として、株式会社ACCESSのAVE-TCP[®]を搭載しています。Copyright[®] 1986-2007 ACCESS CO., LTD.

AVE-SSL F11は暗号モジュール技術として、株式会社ACCESSのAVE[®]-SSLを搭載しています。Copyright[®] 1997-2007 ACCESS CO., LTD.

ACCESS[™]

- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会 (AMED) の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

付属品 (お確かめください)

- ・ 保証書
- ・ 取扱説明書 (本書)
- ・ クイックオペレーションガイド (別冊)
- ・ 電源コード
- ・ 2P-3P 変換器 (F11)

■ 調律について

調律は必要ありません。

■ お引越しの際は

通常の荷物と一緒に運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立てる前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。

特長

スタイリッシュな薄型デジタルピアノ

お部屋のインテリア空間を彩るスタイリッシュな薄型デジタルピアノです。

自然な弾き心地を実現したナチュラルウッド (NW) 鍵盤

白鍵にアコースティックピアノの鍵盤と同様に木材を使用し、指に伝わる感覚までグランドピアノのタッチに近づけたのがナチュラルウッド鍵盤です。鍵盤の硬さやハンマーと鍵盤の重量バランス、鍵盤の重さ（低音部は重く、高音部は軽く）などをグランドピアノに近づけたことにより、従来の電子ピアノを越える弾き心地が楽しめます。また、グランドピアノと同様に、ペダルを踏まずに音をつなげる奏法や高速の同音連打も可能です。

自動演奏鍵盤 (F11)

ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲、USB フラッシュメモリーに保存した曲、およびインターネット上の曲などのソング再生に合わせ鍵盤が動くので、目でも演奏が楽しめます。自宅ではもちろんのこと、レストランなどパブリックスペースでの自動演奏ピアノとしても適しています。

AWM ダイナミックステレオサンプリング

F11/F01 は、ヤマハ独自のサンプリング音源システム「AWM ダイナミックステレオサンプリング」による豊かな音色を備えた電子ピアノです。グランドピアノG. PIANO 1 と 2 の音色は、フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。グランドピアノG. PIANO 1 の音色では、鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしており（ダイナミックサンプリング）、さらに、ダンパーペダルを踏んだときの響板や弦の共鳴音をサンプリングした「サステインサンプリング」、鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングした「キーオフサンプリング」を採用し、ぜいたくな音作りを行なっています。

インターネットダイレクト接続機能 (F11)

専用サイトのストリーミングサービスを利用することにより、さまざまなジャンルのソング(曲データ)を再生させ、BGM として聞くことができます。

目次

準備

取扱説明書について	6
付属品 (お確かめください)	7
特長	8
目次	9
各部の名称と機能	10
この楽器のしくみ	12
ご使用前の準備	13
・キーカバーについて	13
・譜面立てについて	14
・電源コードを接続する (F11)	14
・電源コードを接続する (F01)	15
・電源を入れる	15
・音量 (ボリューム) を調節する	16
・ヘッドフォン (別売) を使う場合	16
・楽器本体のバージョンを確認する (F11)	16

本編

ピアノ リスニングソング (Classic&Jazz)	
50 曲 (プリセットソング) を聞く	17
・自動演奏鍵盤を鑑賞する (F11)	19
USB 対応 USB フラッシュメモリー内の曲を聞く	20
USB 記憶装置の取り扱いについて	23
フロッピーディスクの取り扱いについて	24
インターネットの曲を聞く (F11)	25
・XG のピアノボイスに差し替える (ソングオートリボイスの解除) (F11)	26
音色を楽しむ	27
・音色を選ぶ	27
・音色デモ曲を聞く	27
・違った表情の音にする (バリエーション)	28
・ペダルを使う	28
・2つの音色を重ねる (デュアル)	29
・音色の設定を保存する (F11)	30
・鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く (スプリット)	30
・メトロノームを使う	32
・音に残響を付ける (リバーブ)	33
・キー (調) を変える (トランスポーズ)	33
・音の高さの微調整をする (チューニング)	34
・タッチ感を変える (タッチ)	34
演奏を録音 (記録) する	35
録音した曲を再生する	37
録音した曲を USB フラッシュメモリーに 保存する	38
インターネットダイレクト接続機能 (F11)	39
・楽器をインターネットに接続する準備	39
・楽器をインターネットに接続する	41
・インターネット設定について	42

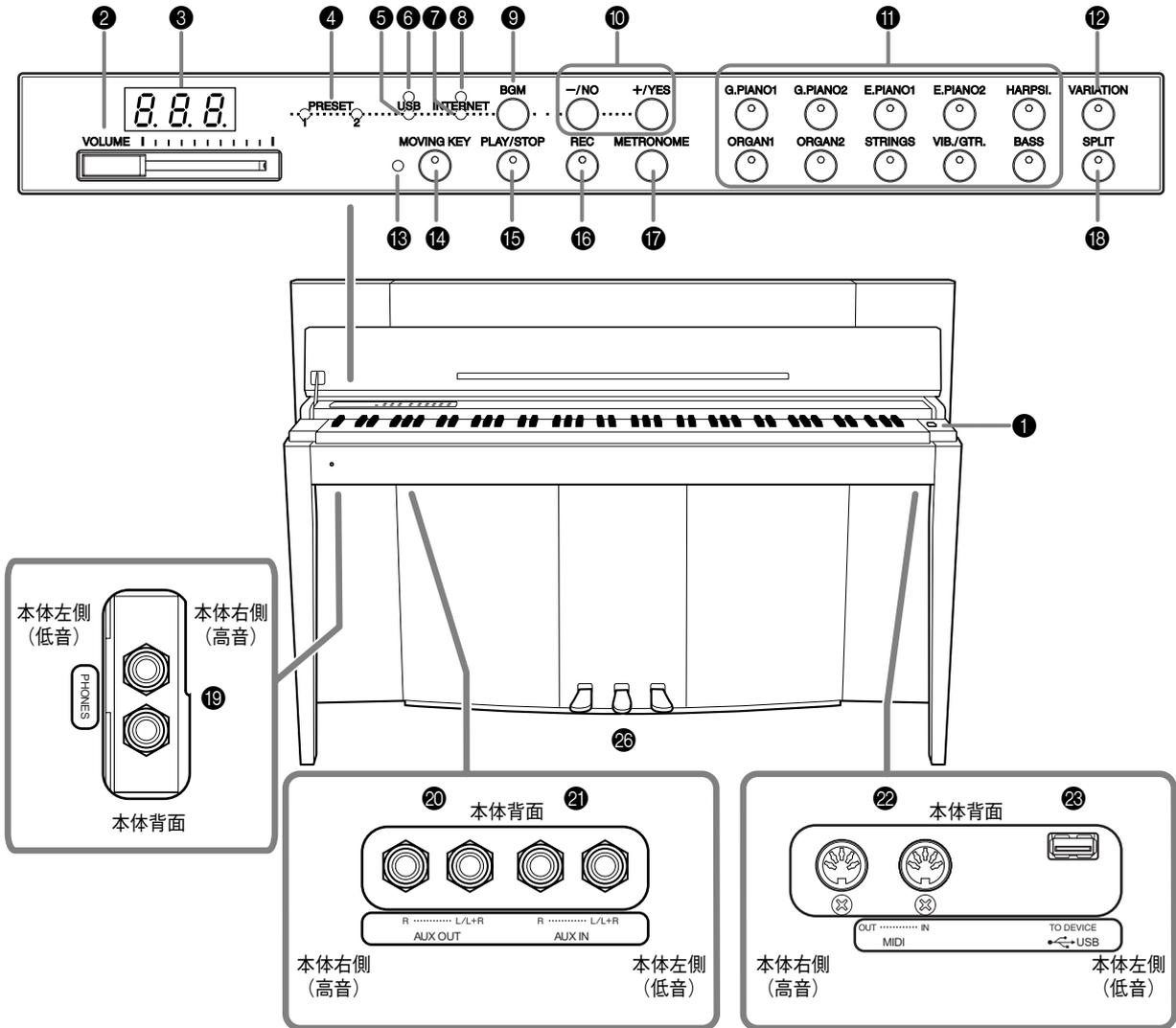
・無線 LAN の電波強度を表示する (USB 無線 LAN アダプターをお使いの場合)	43
・接続情報ファイルを書き出す	44
・インターネット設定を初期化する	45
・インターネット 初期設定一覧	45
・インターネット用語集	46
外部機器との接続	48
・端子について	48
・コンピューターと接続する	49
MIDI ミディについて	50
データのバックアップ (F11)	52
・内部メモリーにバックアップする	52
・USB フラッシュメモリーにバックアップする	53
・データをリストアする	54
データのバックアップ (F01)	55
・内部メモリーにバックアップする	55
・コンピューターにバックアップする	55
・データをリストアする	56
困ったときは	57

付録

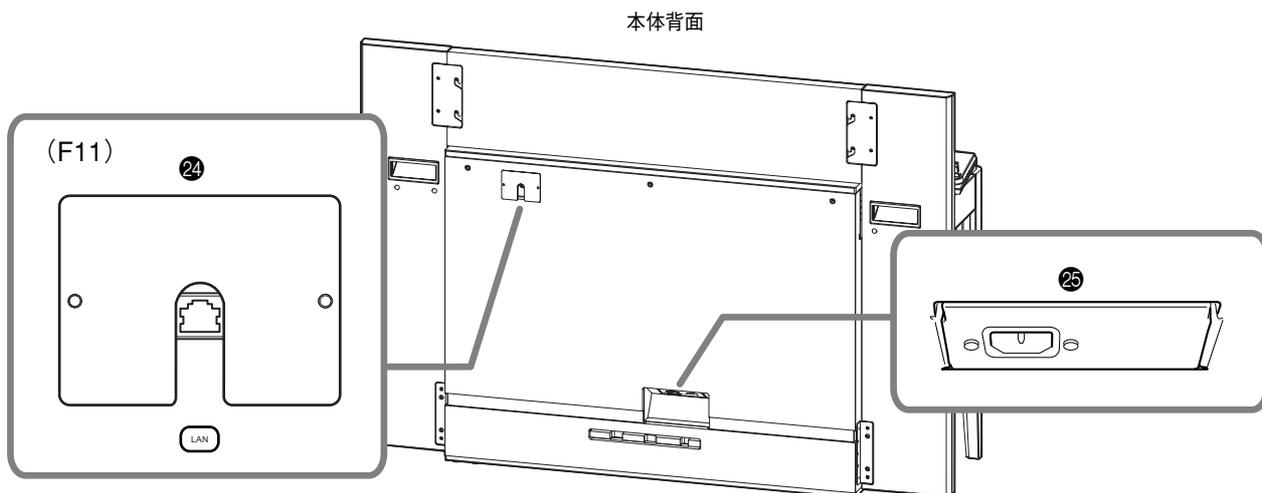
ピアノリスニングソング (Classic&Jazz) 50 曲 一覧	58
音色一覧	60
音色デモ曲一覧	61
初期設定一覧	62
メッセージ一覧 (F11)	63
メッセージ一覧 (F01)	64
各音色のプログラムチェンジナンバー	65
別売品の紹介	65
仕様	66
組み立て	67
索引	69

各部の名称と機能

イラストは、F11 を使用しています。



- ① [POWER] スイッチ..... 15 ページ
電源のオン/オフを切り替えます。
- ② [VOLUME] スライダー 16 ページ
音量を調節できます。
- ③ ディスプレイ 11 ページ
操作に応じて、さまざまな情報が表示されます。状況によっては、何も表示されていない場合もあります。
⊘ 画面に「--」が順番に表示されているとき(データアクセス中)は、電源を切らないでください。データが壊れるおそれがあります。
- ④ [PRESET 1]/[PRESET 2] ランプ..... 17 ページ
ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲 (プリセットソング) を聞くとときに点灯させます。
- ⑤ [USB] ランプ 20 ページ
USB フラッシュメモリー内の曲を聞くとときに点灯させます。
- ⑥ [USB] アクセスランプ 20 ページ
USB フラッシュメモリーのデータを読み込み中に赤く点滅します。
- ⑦ [INTERNET] ランプ (F11) 25 ページ
インターネットの曲を聞くとときに点灯させます。
- ⑧ [INTERNET] アクセスランプ (F11) 25 ページ
インターネット通信中に赤く点滅します。
- ⑨ [BGM] ボタン 17、20、25、27 ページ
BGM モードの [PRESET 1]/[PRESET 2]/[USB]/[INTERNET](F11)/ オフを切り替えます。詳しくは、「この楽器のしくみ」(12 ページ)を参照してください。
- ⑩ [-/NO]/[+/YES] ボタン
数値を設定したり曲や項目を選んだりできます。
- ⑪ 音色ボタン 27 ページ
グランドピアノをはじめとした 20 種類の音色を、[VARIATION] ボタンのオン/オフを切り替えてお楽しみいただけます。



- 12 [VARIATION] ボタン.....28 ページ
違った表情の音をお楽しみいただけます。
- 13 [MOVING KEY] ステータスランプ (F11)..19 ページ
自動演奏鍵盤の動作中に異常が発生したときに赤く点灯します。
- 14 [MOVING KEY] ボタン (F11) 19 ページ
ピアノリスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲、USB フラッシュメモリーに保存した曲、およびインターネット上の曲などのソング再生に合わせ鍵盤が自動に動きます。
- 15 [PLAY/STOP] ボタン..... 18、21、26 ページ
ピアノリスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲、USB フラッシュメモリーに保存した曲、およびインターネット上の曲 (F11) などのソング再生をスタートしたり、ストップしたりします。
- 16 [REC] ボタン35 ページ
ご自身の演奏を録音できます。
- 17 [METRONOME] ボタン32 ページ
メトロノームの機能を使用できます。
- 18 [SPLIT] ボタン.....30 ページ
鍵盤を左右の領域に分けて、別々の音色で演奏することができます。
- 19 [PHONES] 端子..... 16 ページ
ヘッドフォンを接続できます。
- 20 AUX OUT[L/L+R] [R] 端子..... 48 ページ
楽器本体の音を外部オーディオ機器から出したり、カセットテープレコーダーなどを接続して、ご自身の演奏を録音したりできます。
- 21 AUX IN[L/L+R] [R] 端子..... 49 ページ
外部機器の音を F11/F01 から出すことができます。
- 22 MIDI [IN][OUT] 端子..... 49 ページ
MIDI 機器を接続して、MIDI を活用することができます。
- 23 USB [TO DEVICE] 端子 49 ページ
USB フラッシュメモリーを接続して、録音した曲を保存したり、USB フラッシュメモリーに入っているデータを楽器本体で再生したりできます。
- 24 [LAN] 端子 (F11)39、49 ページ
楽器をインターネットに接続して、専用サイトのストリーミングサービスを利用することにより、さまざまなジャンルのソング (曲データ) を再生させ、BGM として聞くことができます。
⊘ [LAN] 端子とコンピューターを直接つないでも動作しませんので、コンピューターとは接続しないでください。
- 25 [AC INLET] 端子.....14、15 ページ
電源コードを接続するときにプラグを差し込みます。
- 26 ペダル..... 28 ページ
ピアノ演奏に使います。

ディスプレイ

- ・操作の結果をパネルのディスプレイで確認しながら進めてください。
- ・場面に応じて、たとえば下記のような表示になります。



この楽器のしくみ

BGM オン/オフを切り替え、さまざまな機能呼び出します。

BGM			BGM オフ
PRESET	USB	INTERNET(F11)	左記ランプをオフにした状態です。
1	2		録音した曲を再生する / 演奏を録音する / 音色を楽しむ
自動演奏鍵盤オン / オフ (F11)			

BGM

以下のように構成されています。

[PRESET 1]/[PRESET 2] ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲を聞く (17 ページ)

[USB] USB フラッシュメモリー内の曲を聞く (20 ページ)、録音した曲を USB フラッシュメモリーに保存する (38 ページ)

[INTERNET] (F11) インターネットの曲を聞く (25 ページ)

BGM オフ

[BGM] ボタンを押して、[PRESET 1]/[PRESET 2]/[USB]/[INTERNET](F11) ランプをオフにした状態です。

録音した曲を再生する (37 ページ)、演奏を録音(記録)する (35 ページ)、音色を楽しむ(ご自分でピアノを弾く)(27 ページ)

自動演奏鍵盤オン / オフ (F11)

BGM 曲の再生に合わせて鍵盤が自動に動きます。

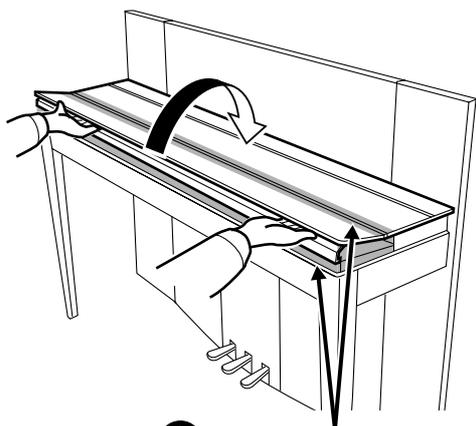
自動演奏鍵盤を鑑賞する (19 ページ)

ご使用前の準備

■ キーカバーについて

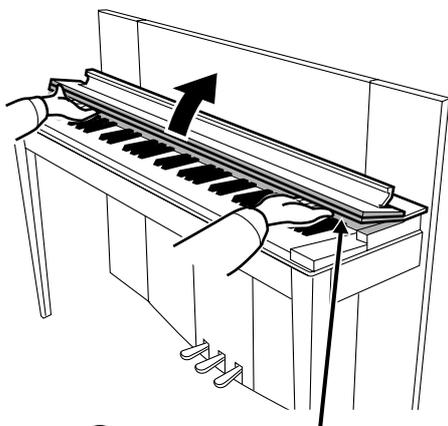
開けるとき

1. 手前のくぼみに手をかけてキーカバーを持ち上げ、手前の部分を折りたたみます。



❗ 手や指をはさまないように注意

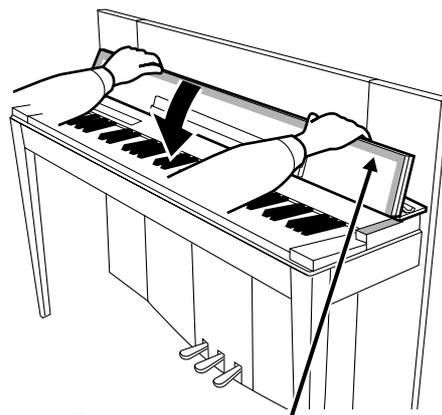
2. もう一度手前を持ち上げて、背板に立てかけます。



❗ 手や指をはさまないように注意

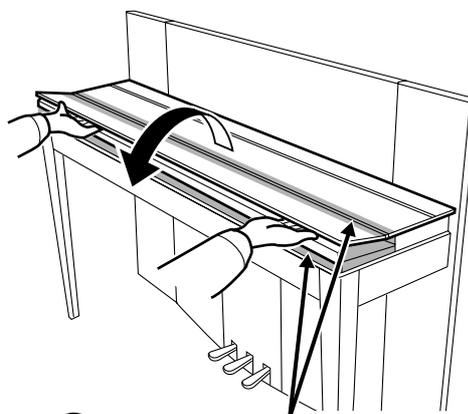
閉めるとき

1. 譜面立て (14 ページ) を起こしてあるときは、パネル面への傷付きを防ぐため譜面立てを戻します。
2. キーカバーを手前にゆっくり倒します。



❗ 手や指をはさまないように注意

3. 折りたたまれているキーカバーの上側を、ゆっくりと手前に戻します。



❗ 手や指をはさまないように注意



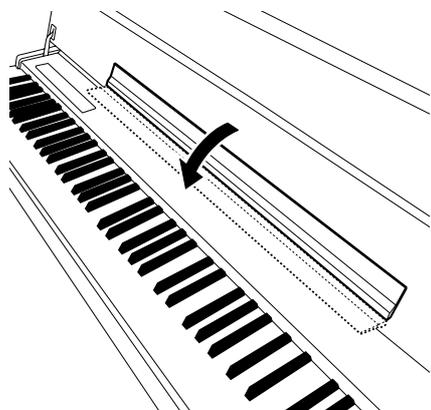
キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。
また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間、キーカバーの折れめに手や指をはさまないようにご注意ください。

■ 譜面立てについて

キーカバーの内側に譜面立てが付いています。

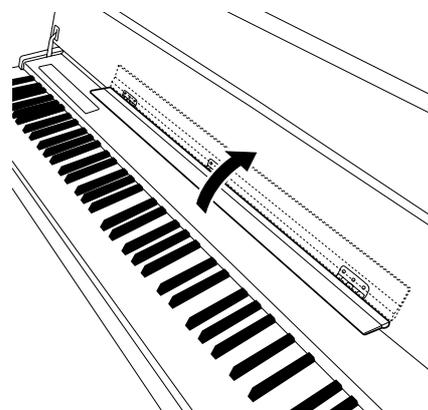
使うとき

キーカバーについている譜面立てを、手前に倒します。



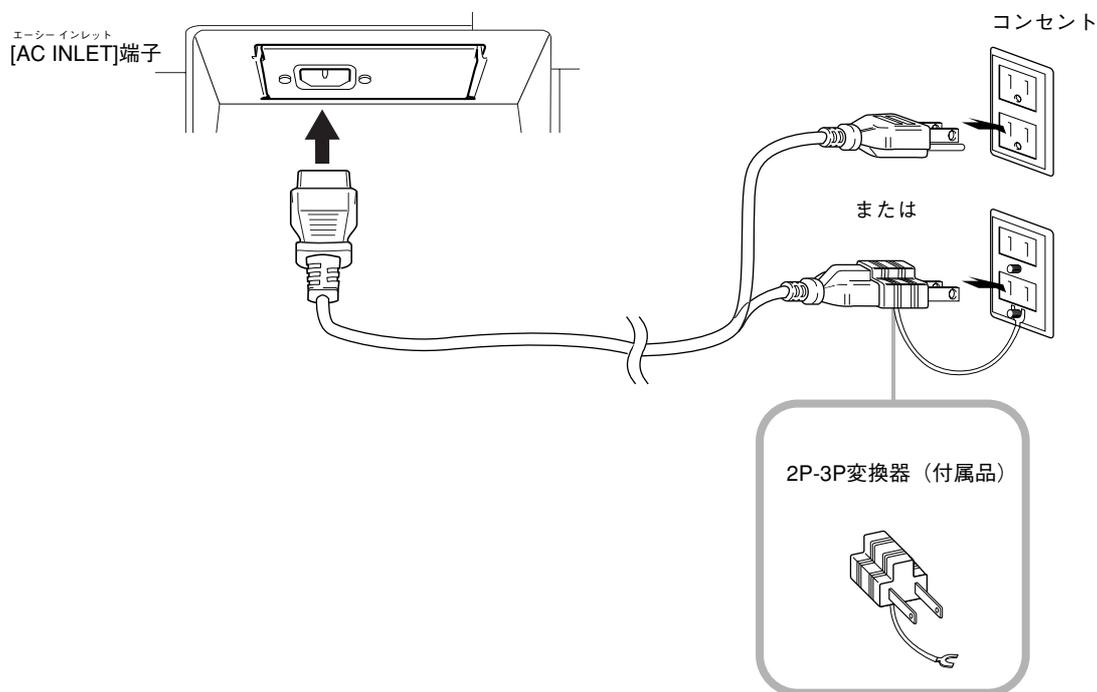
しまうとき

譜面立てを、キーカバー側へ戻します。



■ 電源コードを接続する (F11)

下記をよくお読みいただき、正しく接続してください。F01 をお買い上げいただいたお客様は、「電源コードを接続する (F01)」(15 ページ) の手順に従って電源コードを接続してください。



1. 電源コードの本体側のプラグを差し込みます。[AC INLET] 端子の位置は、「各部の名称と機能」(11 ページ) でご確認ください。
2. コンセント側 (家庭用 AC100V) のプラグを差し込みます。

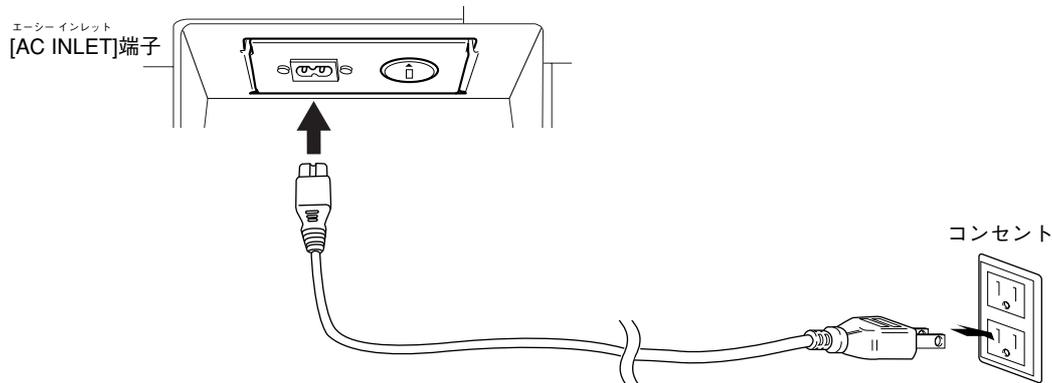
❗ F11 は、アース線の使用を前提として設計されています。感電と機器の損傷を防ぐため、電源コードにはアース端子が付いています。コンセントにプラグを差し込むときは、アース端子を接続してください。なお、接続方法がわからないときは、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご相談ください。

❗ 電源は必ず AC100V を使用してください。

❗ 電源コードは、必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用すると、発熱や感電の原因になります。

電源コードを接続する (F01)

下記をよくお読みいただき、正しく接続してください。F11 をお買い上げいただいたお客様は、「電源コードを接続する (F11)」(14 ページ) の手順に従って電源コードを接続してください。



1. 電源コードの本体側のプラグを差し込みます。[AC INLET] 端子の位置は、「各部の名称と機能」(11 ページ) でご確認ください。
2. コンセント側 (家庭用 AC100V) のプラグを差し込みます。



電源は必ず AC100V を使用してください。



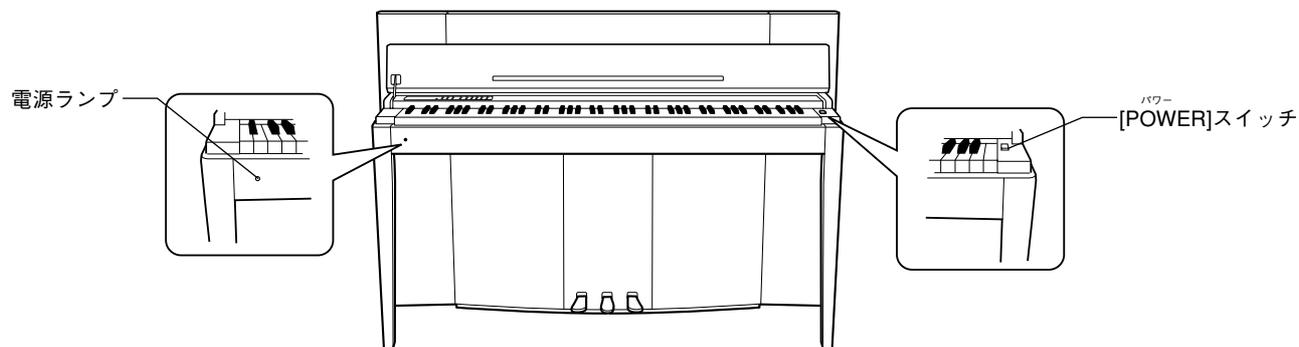
電源コードは、必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用すると、発熱や感電の原因になります。

電源を入れる

^{パワー}[POWER] スイッチを押して、電源を入れます。

☞ 電源が入ると電源ランプが点灯します。

電源を切るときは、もう一度 ^{パワー}[POWER] スイッチを押します。



USB フラッシュメモリーのデータを読み込み中 (^{USB} アクセスランプ赤点滅中) は電源を切らないでください。データが壊れる原因になります。



電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。F11/F01 を長時間使用しないときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

POWER= 電源

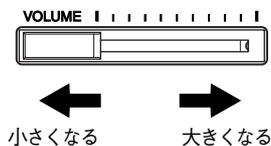
電源ランプについて

楽器のご使用后、電源を切り忘れてキーカバーを閉めてしまった場合、電源ランプの点灯が、入ったままであることを知らせてくれます。

音量（ボリューム）を調節する

本体パネル左の [VOLUME] スライダーを左右に動かして調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。

VOLUME= 全体の音量



[VOLUME] スライダーで [PHONES] 端子の出力レベルや AUX IN[L/L+R] [R] 端子からの入力音の出力レベルも調節できます。

- 大きな音量で長時間使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。

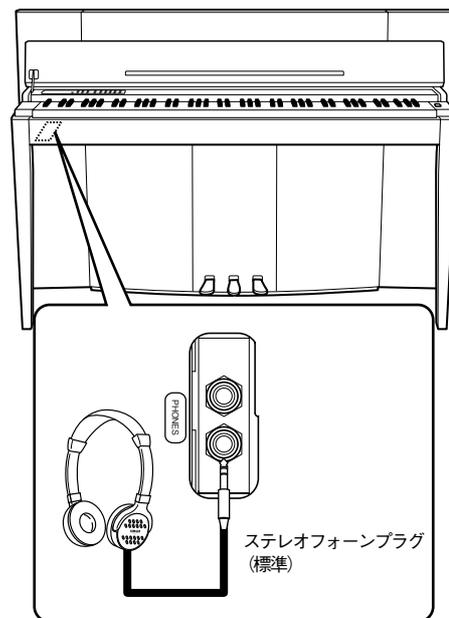
ヘッドフォン（別売）を使う場合

ヘッドフォンを [PHONES] 端子に接続して使います。

[PHONES] 端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。

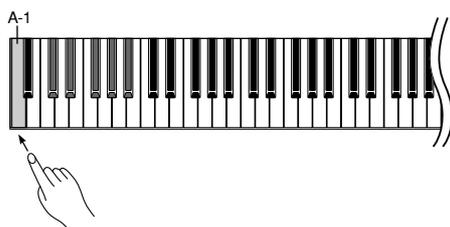
- 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。

別売ヘッドフォン…
YAMAHA ヘッドフォン HPE-160



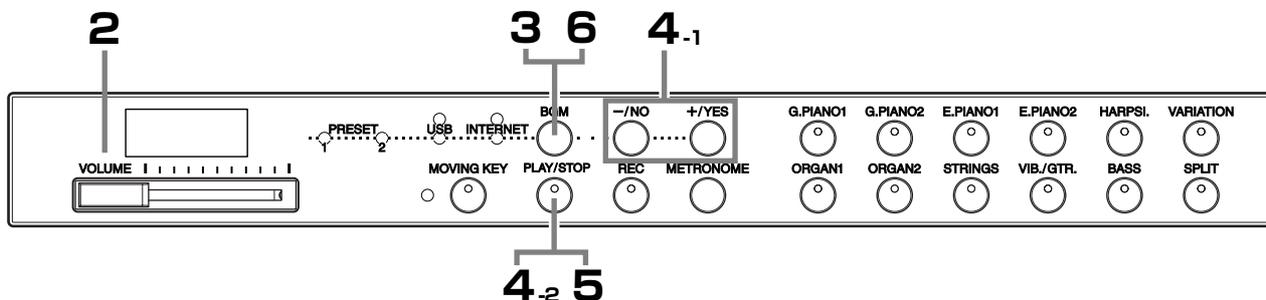
楽器本体のバージョンを確認する (F11)

この楽器のバージョンを確認するには、[MOVING KEY] ボタンを押しながら、A-1 鍵盤を押します。元のディスプレイに戻るときには、[- /NO] または [+ /YES] ボタンを押します。



ピアノリスニングソング(Classic&Jazz) 50曲(プリセットソング)を聞く

この楽器には、ピアノリスニングソング(Classic&Jazz)が50曲入っています。聞いてみましょう。



操作

1 電源を入れる / 切る
 [POWER] スイッチをオンにします。

2 音量を調節する
 音量はピアノリスニングソング(Classic&Jazz)50曲を再生中でも調節できますが、[VOLUME] スライダーを中程まで上げておきます。

3 [PRESET 1] または [PRESET 2] ランプを選ぶ
 [BGM] ボタンを押して、[PRESET 1] または [PRESET 2] ランプを選択します。
 [PRESET 1] には Classic 曲、[PRESET 2] には Jazz 曲が入っています。曲名については、「ピアノリスニングソング(Classic&Jazz)50曲一覧」(58ページ)をご参照ください。

4 選曲し、再生をスタートする

4-1 [- /NO] または [+ /YES] ボタンを押して、聞く曲を選びます。

ランダム rnd : 曲を順不同に、ストップするまで連続再生します。

オール ALL : 曲を順番に、ストップするまで連続再生します。

シーン Sxx : 曲をシーンごとに、ストップするまで連続再生します。

1 ~ 30(PRESET 1) : 曲番号を指定して1曲だけ再生します。

31 ~ 50(PRESET 2) : 曲番号を指定して1曲だけ再生します。



ソング (SONG) とは
 F11/F01 では、演奏データを総称して「ソング (SONG)」と呼んでいます。音色デモ曲やピアノリスニングソング(Classic&Jazz)50曲も演奏データです。

音色デモ曲の再生中(27ページ)や [REC] ボタンがオンのときには、[PRESET 1] および [PRESET 2] ランプは選べません。

ランダム再生とは
 曲の中から曲順を楽器が決め、その順番に再生します。曲の停止中に [PLAY/STOP] ボタンを押すと曲順を組み替えて再生します。

シーンとは

ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲は 23 のシーンごとにも分けてありますので、好みのシーンを選んで聞くことができます。

たとえば「おとぎ話の世界」のイメージの演奏を聞きたいときは、「メルヘン」のシーンを選ぶとそのイメージの曲が次々に演奏されます。シーンの曲リストは 58 ページを参照ください。

シーンタイトル

Classic

- | | | |
|----------|-------|------------------|
| ・ホームパーティ | ・くつろぎ | ・メルヘン |
| ・目覚め | ・おやすみ | ・バロック古典 / ロマン派前期 |
| ・喜び | ・哀しみ | ・ロマン派前期 (ショパン) |
| ・優雅 | ・ロマンス | ・ロマン派後期 |
| | | ・フランス近代 |

Jazz

- | | | |
|----------|---------|--------|
| ・ホームパーティ | ・ナイトタイム | ・イノセント |
| ・デイトタイム | ・エレガント | ・ロマンス |
| ・アフターヌーン | ・アップビート | |
| ・イブニング | ・バラード | |

4-2 プレイ/ストップ [PLAY/STOP] ボタンを押すと再生がスタートします。

F11 は、ソング再生に合わせ、鍵盤を動かすことができます (自動演奏鍵盤)。詳しくは、「自動演奏鍵盤を鑑賞する (F11)」(19 ページ) を参照してください。

音量の調節

曲を聞きながら ボリューム [VOLUME] スライダーで音量を調節します。

5 再生をストップする

[PLAY/STOP] ボタンを押します。

6 [PRESET 1] および [PRESET 2] ランプをオフにする

[BGM] ボタンを押して、[PRESET1] と [PRESET2] ランプをオフにします。

再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くことができます。手弾きの音色は変えられます。

手弾き音と再生音用にリバーブ (33 ページ) を、手弾き音用にタッチ (34 ページ) を切り替えることができます。

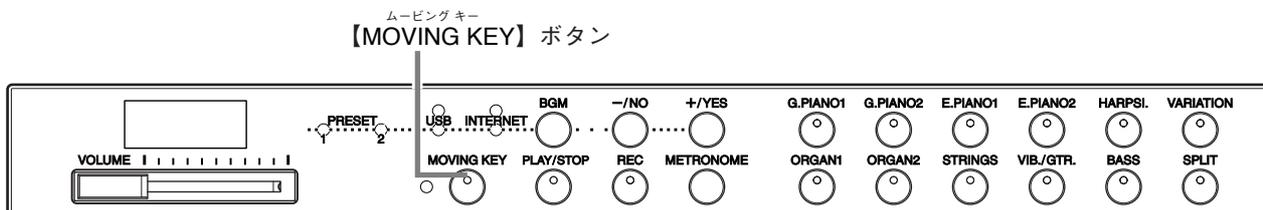
ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲では、テンポの調節ができません。選ばれている曲のテンポになります。

リバーブは新しい曲を選ぶと (または、連続再生で新しい曲がスタートすると) その曲に合ったリバーブの種類になります。

ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲の再生データは、MIDI 送信されません。

自動演奏鍵盤を鑑賞する (F11)

ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲、USB フラッシュメモリに保存した曲、およびインターネット上の曲などのソング再生に合わせて鍵盤が動く自動演奏鍵盤により、目でも演奏が楽しめます。自動演奏鍵盤とBGMモードの関係については、「この楽器のしくみ」(12 ページ)を参照してください。



操作

1 自動演奏鍵盤機能を有効にする

【MOVING KEY】^{ムービングキー} ボタンをオンにします。

【MOVING KEY】ボタンをオンにしソング再生をスタートしても、ペダルは自動に動きません。

初期設定

【MOVING KEY】ボタンはオンです。

初期設定とは

本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「初期設定」と呼んでいます。各機能の初期設定については、「初期設定一覧」(62 ページ)を参照してください。

2 選曲し、再生をスタートする

ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲 (17 ページ)、USB フラッシュメモリに保存した曲 (20 ページ)、およびインターネット上の曲 (25 ページ) などのソング再生をスタートさせてください。

自動演奏鍵盤の動作中に異常が発生したときには、【MOVING KEY】^{ムービングキー} ステータスランプが赤く点灯します。詳細は、「メッセージ一覧 (F11)」(63 ページ) をご参照ください。

3 再生をストップする

ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲 (17 ページ)、USB フラッシュメモリに保存した曲 (20 ページ)、およびインターネット上の曲 (25 ページ) などのソング再生をストップしてください。

4 自動演奏鍵盤機能を無効にする

【MOVING KEY】ボタンをオフにします。

自動演奏鍵盤の対象パート (チャンネル) 設定

初期設定では、ソングデータを基に最適なパートを自動で判別し演奏に合わせて鍵盤を動かします (Auto)。動かすパートを切り替えたい場合は、鍵盤を動かしたいパートのチャンネルを選択してください。

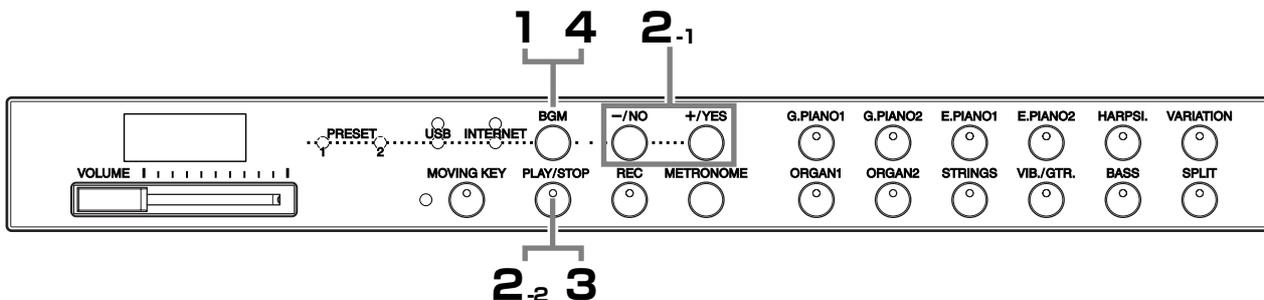
【MOVING KEY】^{ムービングキー} ボタンを押しながら、C4 ~ F5 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。この間、ディスプレイには選択されたチャンネルが表示されます。

C4 ~ D [#] 5	鍵盤パート (チャンネル) 1 ~ 16
E5	ソングが変わっても現在のパートを維持します。自動で判別しません。ディスプレイには OFF が表示されます。
F5	ソングごとに最適なパートを自動で判別する (初期設定)。ディスプレイには ON が表示されます。

USB フラッシュメモリー内の曲を聞く

楽器に USB フラッシュメモリーを差し込んで、ご自分で録音して保存した曲 (38 ページ) やコンピューターなどを使用して USB フラッシュメモリーに保存した曲を聞くことができます。USB フラッシュメモリー (USB 記憶装置) の取り扱いについては、23 ページを参照してください。

! 再生中または [USB] アクセスランプ赤点滅中は、USB フラッシュメモリーを抜かないでください。データが壊れる原因になります。



文字種の設定

この楽器で曲が読み込めない場合は、ファイル名の文字種に問題があることがあります。文字種を設定してください。

日本語にする

日本語やアルファベットを読み込めます (ウムラウトは読み込めません)。
[BASS] と [SPLIT] ボタンを押しながら、電源をオンにします。

INTERNATIONAL にする

アルファベットやウムラウトを読み込めます (日本語は読み込めません)。
[HARPSI.] と [VARIATION] ボタンを押しながら、電源をオンにします。

初期設定

F11: 日本語

F01: INTERNATIONAL

初期設定とは

本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「初期設定」と呼んでいます。各機能の初期設定については、「初期設定一覧」(62 ページ) を参照してください。

操作

1

[USB] ランプを選ぶ

USB フラッシュメモリーが楽器に接続されているのを確認してから、[BGM] ボタンを押して [USB] ランプを選択します。

2

選曲し、再生をスタートする

2-1

[-/NO] または [+ /YES] ボタンを押して、曲を選びます。

rnd : 曲を順不同に、ストップするまで連続再生します。

ALL : 曲を順番に、ストップするまで連続再生します。

Uxx : ご自分で録音して USB フラッシュメモリーに保存した曲 (38 ページ) を順番に、聞く曲番号を指定して 1 曲だけ再生します。

001 ~ 600(F11) :

コンピューターなどを使用して USB フラッシュメモリーに保存した曲を順番に、聞く曲番号を指定して 1 曲だけ再生します。U と合わせ、最大 600 曲です。

001 ~ 400(F01) :

コンピューターなどを使用して USB フラッシュメモリーに保存した曲を順番に、聞く曲番号を指定して 1 曲だけ再生します。



音色デモ曲の再生中 (27 ページ) や [REC] ボタンがオンのときには、[USB] ランプは選ばません。

曲によってはスタートするまでに時間がかかる場合があります。曲と曲の待ち時間についても同様です。

2-2 ^{プレイ/ストップ} [PLAY/STOP] ボタンを押すと再生がスタートします。

音量の調節

曲を聞きながら ^{ボリューム} [VOLUME] スライダーで音量を調節します。

3 再生をストップする

[PLAY/STOP] ボタンを押します。

4 [USB] ランプをオフにする

[BGM] ボタンを押して、[USB] ランプをオフにします。

使用できるデータフォーマット

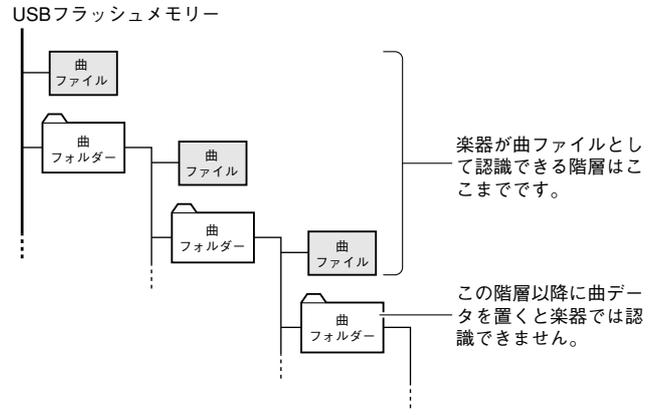
SMF[フォーマット 0] と [フォーマット 1](スタンダード MIDI ファイル)、DOC(ディスクオーケストラコレクション)、ピアノプレーヤ用の曲も再生できます。

コンピューターなどで USB フラッシュメモリーに曲を保存する場合は SMF [フォーマット 0] と [フォーマット 1](スタンダード MIDIファイル) 形式で保存してください。

ただしピアノ以外の楽器を使用している曲を再生すると元のデータどおりに再生されない場合があります。



コンピューターなどでUSBフラッシュメモリーに曲をコピーする場合、ルートカルート上のフォルダー、またはルート上のフォルダー内につくったフォルダーの中に保存してください。これより下の階層のフォルダーに保存された曲は、この楽器では選択 / 再生できませんのでご注意ください。



XG ピアノボイスに差し替える (F11)

インターネットの曲を聞くの[XG ピアノボイスに差し替える (ソングオートリボイスの解除)(F11)] (26 ページ) を参照してください。

初期設定

オン(F11に最適化されたG. PIANO 1 ボイス)

XG ピアノボイスに差し替えたい場合は、オフにしてください。

再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くことができます。手弾きの音色は変えられます。

手弾き音と再生音用にリバーブ (33 ページ) を、手弾き音用にタッチ (34 ページ) を切り替えることができます。

USB フラッシュメモリー内の曲では、テンポの調節ができません。選ばれている曲のテンポになります。

リバーブは新しい曲を選ぶと (または、連続再生で新しい曲がスタートすると) その曲に合ったリバーブの種類になります。

USBフラッシュメモリー内の曲の再生データは、MIDI送信されません。

SMF(スタンダードMIDIファイル) とは

演奏データを記録する書式のことをシーケンスフォーマットといいます。SMF(スタンダード MIDIファイル) は代表的なシーケンスフォーマットの 1 つで、[フォーマット 0] と [フォーマット 1] があります。多くの MIDI 機器が「SMF フォーマット 0」に対応しており、また市販の曲の多くが、「SMF フォーマット 0」で作られています。

市販のソング

コンピューターなどを使用して購入したソングや市販のディスクソングです。ディスクソングは、別売のフロッピーディスクドライブを楽器本体に接続してお楽しみください。F11/F01 では、下記のうちいずれかのマークが付いたディスクを再生できます。

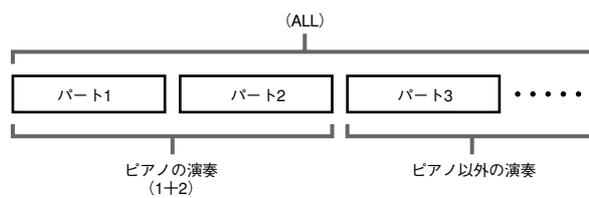


Muma(ミューマ) からピアノソフト、ピアノソフトプラス、DOC のデータを購入する場合は、フロッピーディスクでの購入となります。そのデータを聞く場合は、USB [TO DEVICE] 端子に別売のフロッピーディスクドライブ「UD-FD01」を接続する必要があります。

パート (チャンネル) を指定して再生する (F01)

F01 は、GM/GM2/XG/DOC/GS/XF 音色に対応していないので、USB フラッシュメモリー内の曲を聞くときに、すべてのパートを鳴らすか (ALL)、パート 1 + 2 だけを鳴らすか (1 + 2) を設定します。SMF [フォーマット 0] と [フォーマット 1] (スタンダード MIDI ファイル) のデータでもピアノ以外の楽器を使用しているソングは、正しく再生されないことがあります。通常ピアノの演奏はパート 1 または 2 に録音されているので、ピアノ以外を鳴らさないようにしたい場合に「1 + 2」が有効になります。

お買い求めいただいたとき、楽器は ALL を演奏する設定になっております。



すべてのパートの演奏を有効にする (ALL)

[BGM] ボタンを押しながら、A-1 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。

パート 1 + 2 だけを鳴らす (1 + 2)

[BGM] ボタンを押しながら、A[#]-1 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。

Muma(ミューマ) とは、ミュージックデータの自動販売システムです。Muma 設置店はヤマハミュージックメディアホームページにてご確認ください。

<http://www.ymm.co.jp/muma/index.html>

USB 記憶装置の取り扱いについては、最初に「USB 記憶装置の取り扱いについて」(23 ページ) をお読みください。

フロッピーディスクの取り扱いについては、最初に「フロッピーディスクの取り扱いについて」(24 ページ) をお読みください。

市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。

F11 は GM/GM2/XG/DOC/GS/XF 音色に対応しているため、左記の指定を行なう必要はありません。

USB 記憶装置の取り扱いについて

この楽器には **USB [TO DEVICE]** 端子が装備されています。

USB [TO DEVICE] 端子に、USB 対応の記憶装置（フラッシュメモリー、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブなど）を接続して、楽器本体で制作したデータを USB 記憶装置に保存したり、USB 記憶装置のデータを楽器本体で再生したりできます。

USB 記憶装置をご使用いただく場合は、以下のことをお守りください。

USB 記憶装置の取り扱いについては、USB 記憶装置に付属の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できる USB 記憶装置

- ・ **USB [TO DEVICE]** 端子に接続できる USB 記憶装置は、フラッシュメモリー、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブ、CD-ROM ドライブなどの 1 台です（必要に応じて USB ハブを使用します。USB ハブを使用した場合でも楽器で一度に使用できる USB 記憶装置は 1 台です）。その他の機器（マウス、コンピューターのキーボードなど）は接続しても使えません。
- ・ 動作確認済み USB 機器については、ご購入の前にインターネット上の下記 URL でご確認ください。それ以外の USB 記憶装置については、動作保証ができません。
<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/>

CD-R/RW ドライブを接続した場合、CD-ROM のデータ（MIDI データ）を楽器本体で再生 / 再現することはできませんが、楽器本体のデータを保存して CD-ROM を作ることはできません。

■ USB 記憶装置の接続

- ・ **USB [TO DEVICE]** 端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。USB 記憶装置を外すときは、保存やコピーなどデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。



USB 記憶装置の頻繁な電源のオン / オフや USB ケーブルの抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。保存やコピーなどデータのアクセス中に、USB ケーブルを抜いたり、USB 記憶装置からメディア（フロッピーディスクなど）を取り出したり、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体 / メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

- ・ この **USB [TO DEVICE]** 端子に USB 記憶装置や LAN アダプターを同時に接続したい場合は、USB ハブを使用します。ただし、電源付き（セルフパワー）の USB ハブをご使用ください（必ず電源を入れてご使用ください）。また、USB ハブは 1 台のみ使用可能です。USB ハブの使用中にエラーメッセージが出た場合は、楽器本体から USB ハブを抜き、楽器本体の電源を入れ直した上で、再度 USB ハブを接続してください。
- ・ 楽器本体上では USB1.1 に対応していますが、USB2.0 の機器を接続し使用できます。ただし転送スピードは USB1.1 相当になりますので、ご了承ください。

■ 誤消去防止

- ・ USB 記憶装置には、誤ってデータを消してしまわないようにするためライトプロテクトができるものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いの USB 記憶装置のライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクドライブは別売品 (65 ページ) をご使用ください。

ディスク挿入口にフロッピーディスクを挿入すると、ディスク内のデータを本体に読み込むことができます。

フロッピーディスクをご使用いただく場合は、以下のことをお守りください。

■使用できるフロッピーディスクの種類

3.5 インチの 2DD、または、2HD フロッピーディスクが使用できます。

■フロッピーディスクの挿入 / 取り出し

● フロッピーディスクの挿入

・ フロッピーディスクのシャッターに文字が書かれている方 (表面) を上にして、ディスク挿入口にカチッと音がするまでていねいに差し込みます。

● フロッピーディスクの取り出し

・ あらかじめフロッピーディスクにアクセス中 * でないことを確認した上で (ディスク挿入口左下のユーザランプが消えたことを確認した上で)、ディスク挿入口の右上にあるイジェクトボタンをしっかりと奥まで押します。フロッピーディスクが押し出されるので、取り出して (引き抜いて) ください。フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなった場合は、無理に取り出そうとせず、もう一度イジェクトボタンを押しなおすか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んでからやり直してください。

* アクセス中：ディスク内のデータを本体に読み込み中であることを指します。また、電源が入っている状態でフロッピーディスクを挿入したときも、楽器本体がディスクの内容を確認するために自動的にアクセス中になります。

 アクセス中にフロッピーディスクを取り出したり、楽器本体の電源を切ったりしないでください。ディスク内容がこわれるだけでなく、フロッピーディスクドライブの故障の原因になります。

・ 電源を切るときは、フロッピーディスクはあらかじめディスクドライブユニットから取り出してください。電源を切ったあと、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

■磁気ヘッドの定期的なクリーニング

・ ディスクドライブユニットは高精度の磁気ヘッドを使用しています。ディスクドライブユニットを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れてきます。磁気ヘッドが汚れると、録音や再生にエラーが生じることがあります。

・ ディスクドライブユニットを良好な状態でご使用いただくために、磁気ヘッドを定期的に (1か月に 1 回程度) クリーニングしていただくことをおすすめします。

磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、取扱説明書巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点で、弊社推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただくこともできます。

■フロッピーディスクについてのご注意

● フロッピーディスクの取り扱いと保管

・ (持ち運ぶ場合も含めて) 必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物をのせたり、折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やほこりなどが入らないようにしてください。

・ 直射日光のあたる場所 (日中の車内など) やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところに置かないでください。

・ ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。

・ 磁気を帯びたもの (テレビやスピーカーなど) には近づけないでください。

・ シャッターやディスク自体が変形しているようなディスクは、使用しないでください。

・ フロッピーディスクにはラベル以外のもの (メモなど) を貼らないでください。ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

● 誤消去防止

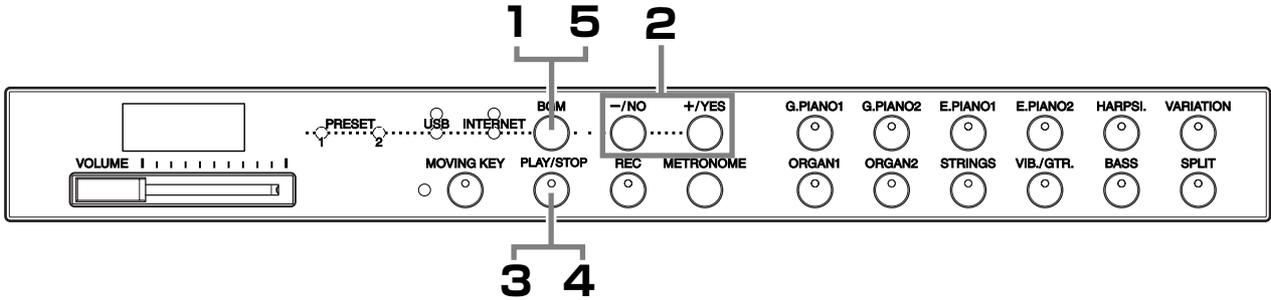
・ フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまわないようにライトプロテクトタブ (書き込み禁止タブ) が付いています。大切なデータが入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン (タブの窓が開いた状態) にして、書き込みができないようにしてください。

・ 逆に、データを保存する場合などは、ご使用前にディスクのライトプロテクトタブがオフになっていることをご確認ください。

市販フロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をご確認の上、お求めください。

インターネットの曲を聞く (F11)

専用サイトのストリーミングサービスを利用することにより、さまざまなジャンルのソング(曲データ)を再生させ、BGMとして聞くことができます。



インターネットへの接続については、最初に「インターネットダイレクト接続機能(F11)」(39ページ)をお読みください。

操作

1 インターネット [INTERNET] ランプを選ぶ

楽器がインターネットに接続されているのを確認してから、ビーム [BGM] ボタンを押して [INTERNET] ランプを選択します(通信中は、[INTERNET] アクセスランプが赤く点滅します)。

2 チャンネルを変更する

レ [- /NO] または リ [+ /YES] ボタンを押して、チャンネルを変更します。この間、ディスプレイには選択されているチャンネルが表示されます。



ストリーミングとは
曲データを受信しながら再生する方式です。曲データのファイル保存はできませんが、何回でも呼び出すことができます。

音色デモ曲の再生中(27ページ)や [REC] ボタンがオン(35ページ)のときには、[INTERNET] ランプは選べません。

ディスプレイのイラストは、操作説明のためのものです。したがって実際のディスプレイと異なる場合があります。

3 再生をスタートする

プレイ/ストップ
[PLAY/STOP] ボタンを押すと、インターネット上の曲データが再生されま
す(通信中は、[INTERNET] アクセスランプが赤く点滅します)。

4 再生をストップする

[PLAY/STOP] ボタンを押します。

5 [INTERNET] ランプをオフにする

[BGM] ボタンを押して、[INTERNET] ランプをオフにします。

再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くことができます。手弾きの音色は変えられます。

手弾き音と再生音用にリバーブ (33 ページ) を、手弾き音用にタッチ (34 ページ) を切り替えることができます。

インターネットの曲では、テンポの調節ができません。選ばれている曲のテンポになります。

リバーブは新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)その曲に合ったリバーブの種類になります。

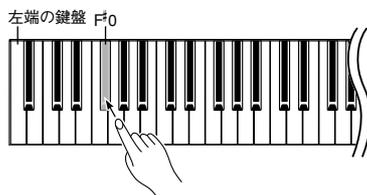
インターネットの曲の再生データは、MIDI送信されません。

■ XGのピアノボイスに差し替える(ソングオートリボイスの解除)(F11)

市販の XG ソングデータや F11 以外の楽器で制作したソングデータを再生するときに、F11 に最適化された G. PIANO 1 ボイスを XG のピアノボイスに差し替える(リボイスを解除する)ことができます。この機能は、差替処理(リボイスの解除)をソング再生時に自動に行なってくれます。

操作

ピッチ/F11
[BGM] ボタンを押しながら F[#]0 鍵盤を押して、機能のオン/オフを切り替えます。この間、ディスプレイには機能の ON/OFF が表示されます。



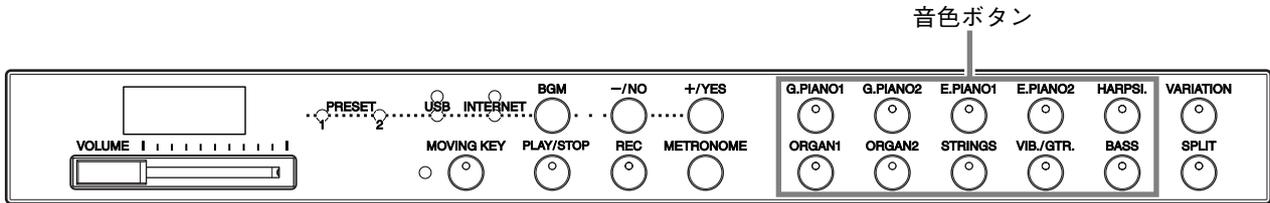
初期設定

オン(F11に最適化された G.PIANO 1 ボイス)
XG ピアノボイスに差し替えたい場合は、オフにしてください。

ここでの設定は手弾き音に影響しません。手弾き音は、F11 に最適化された G. PIANO 1 ボイスです。

音色を楽しむ

■ 音色を選ぶ

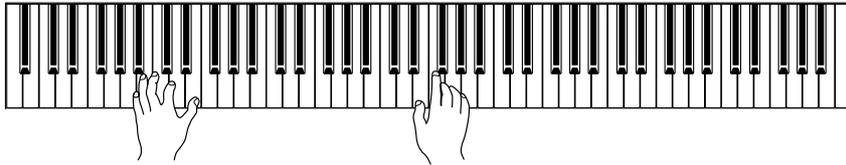


操作

使いたい音色ボタンを押します。

音色の特長をつかむには、音色ごとの音色デモ曲を聞いてみてください (27 ページ)。「音色デモ曲一覧」(61 ページ) もご参照ください。

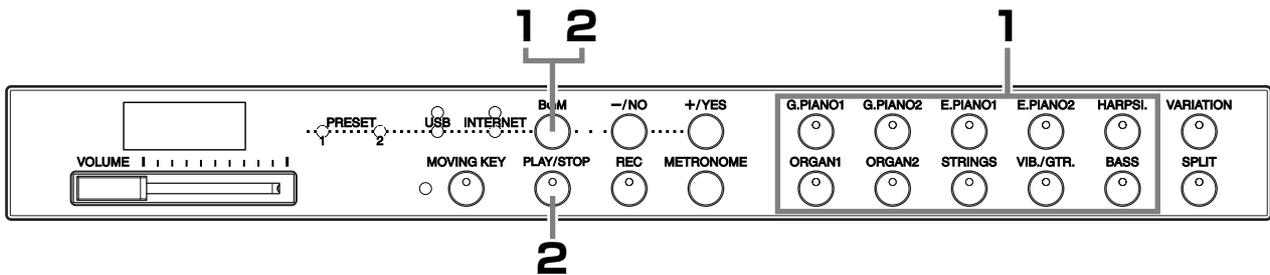
[VOLUME] スライダーで音量を調節しながら演奏してください。



タッチにより音の強弱を付けることができますが、音色によっては音の強弱が付かないものがあります。音色一覧の「タッチによる音の強弱」(60 ページ) をご参照ください。

■ 音色デモ曲を聞く

F11/F01 には、音色ボタンごとに 1 曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。



操作

1 選曲し、再生をスタートする

[BGM] ボタンを押しながら、聞きたい音色デモ曲の音色ボタン (再生中に点滅します) を押します。

⇒ 音色デモ曲の再生がスタートします。そのあと、再生をストップするまで、音色ボタンの左上から順に音色デモ曲が連続して再生されます。音色デモ曲の曲名については、「音色デモ曲一覧」(61 ページ) をご参照ください。

2 再生をストップする

[BGM] または **[PLAY/STOP]** ボタンを押します。

音色デモ曲の再生データは MIDI 送信されません。また、音色デモ曲の再生中は MIDI 受信を行いません。

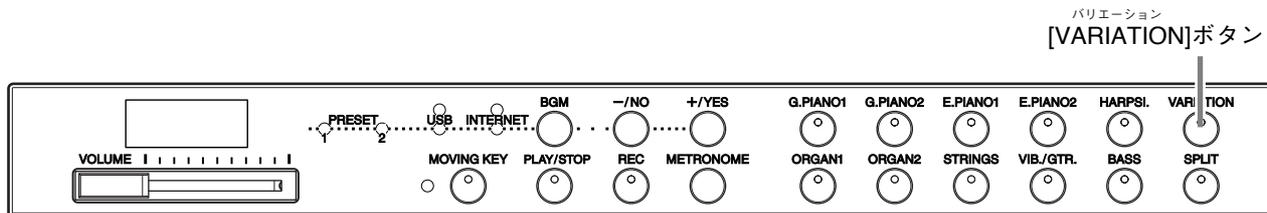
[REC] ボタンがオン (35 ページ) のときはデモ曲の再生をスタートすることはできません。

音色デモ曲では、テンポの調節ができません。選ばれている曲のテンポになります。

音色デモ曲の再生中に、選択されている音色ボタンをもう一度押すと、曲の先頭に戻って繰り返します。

■ 違った表情の音にする (バリエーション)

違った表情の音にします。音色ごとのバリエーションの特徴については、「音色一覧」(60 ページ) をご参照ください。



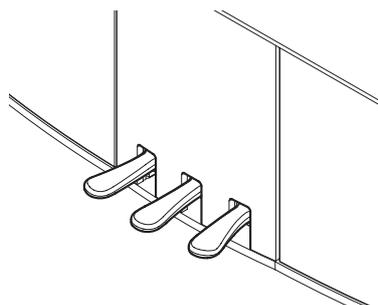
操作

[VARIATION] ボタンまたは選ばれている音色ボタンを押すごとにオン / オフが切り替わります。

初期設定
オフ

■ ペダルを使う

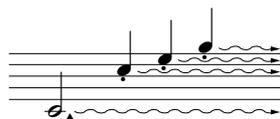
ペダルには、右のペダル (ダンパーペダル) とまん中のペダル (ソステヌートペダル)、左のペダル (ソフトペダル) があります。これらはピアノ演奏で使われます。



右のペダル (ダンパーペダル)

このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。

[G.PIANO1 または G. PIANO 1 のバリエーション] の音色で、ダンパーペダルを踏むと、ダンパーペダルを踏んだときの響板や弦の共鳴効果 (サステインサンプリング) が加わります。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

鍵盤を左右に分けて (スプリット)、別々にダンパーペダルの効果を加えることができます。詳しくは、31 ページをご覧ください。

まん中のペダル (ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

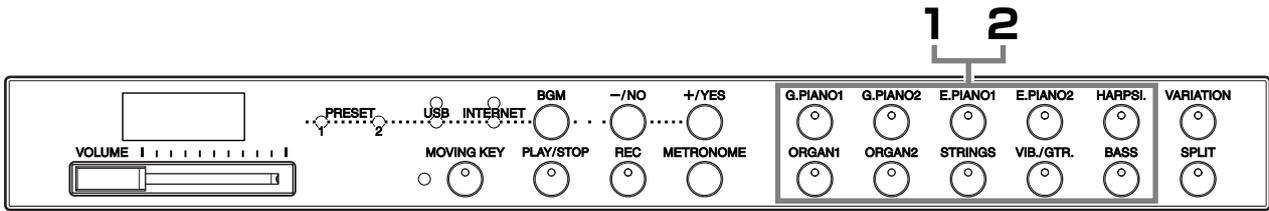
オルガンやストリングスの音色では、ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

左のペダル (ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます (ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけた音を弾く直前に踏みます)。

2つの音色を重ねる（デュアル）

音色を重ねる機能をデュアルといいます。重ねて鳴らすことにより、厚みのある音を作りだします。

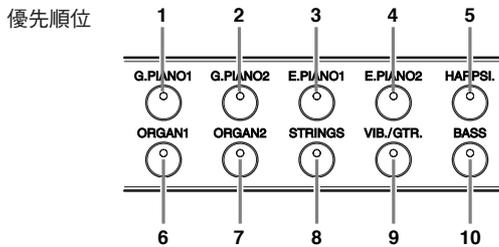


操作

1 デュアルモードに入る

1つの音色ボタンを押しながら、もう1つの音色ボタンを押します。
 ⇨ 2つの音色ボタンが点灯します。

※ 下記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります（もう一方は第2音色）。



第1音色、第2音色はそれぞれ、以下のような設定ができます。

2 音色の音量バランス設定

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く重ねるなど、2音色の音量バランスを設定します。

[METRONOME] ボタンを押しながら、F#5 ~ F#6 鍵盤を押します（別冊クイックオペレーションガイド）。この間、ディスプレイには音量バランスが表示されます。

設定値が +6 に近づくほど第1音色の音量が大きくなります。設定値が 0 で同音量です。

オクターブシフトの設定

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色を別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

[METRONOME] ボタンを押しながら、A4 ~ D5 鍵盤を押します（別冊クイックオペレーションガイド）。この間、ディスプレイにはオクターブシフトの値が表示されます。

第1音色	A4	-1
	A#4	0
	B4	+1

第2音色	C5	-1
	C#5	0
	D5	+1

第2音色のリバーブの深さ設定 (F11)

[METRONOME] ボタンを押しながら、F#1 ~ F2 鍵盤を押します（別冊クイックオペレーションガイド）。この間、ディスプレイにはリバーブの深さが表示されます。

2 デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押して、デュアルモードを抜けます。

デュアル=2つ

モードとは
 ある機能を実行できる状態を意味しています。ここでは、音色を重ねることができる状態のことを「デュアルモード」と呼んでいます。

デュアルとスプリット
 デュアルとスプリット (30 ページ) を同時に使うことはできません。

デュアルモードに入る前に、両方または片方の音色のバリエーションがオンになっていると、[VARIATION] ボタンが点灯します。両方オフになっていると、[VARIATION] ボタンは消灯します。デュアルモードでは、[VARIATION] ボタンを押すごとに両音色のバリエーションのオン/オフが切り替わります。片方だけのオン/オフを切り替えたい場合には、他方の音色ボタンを押しながら、バリエーションのオン/オフを切り替える音色ボタンを押します。

初期設定
 音色の組み合わせごとバランスが設定されています。

初期設定
 音色の組み合わせごとオクターブが設定されています。

初期設定 =F2
 音色ごとに第2音色のリバーブの深さが設定されています。

デュアルのときのリバーブ
 第1音色のリバーブ (33 ページ) の種類が、採用されます。

■ 音色の設定を保存する (F11)

現在選択されている一部の音色設定は楽器本体に保存できます。電源を切っても消えずに残ります。

操作

[REC] ボタンを押しながら、**[G. PIANO 1]** ボタンを押します (別冊クイックオペレーションガイド)。保存が完了すると、ディスプレイに「End」が3秒表示されます。以下の設定が保存されます。

- リバーブの種類と深さ
- オクターブ
- ボリューム

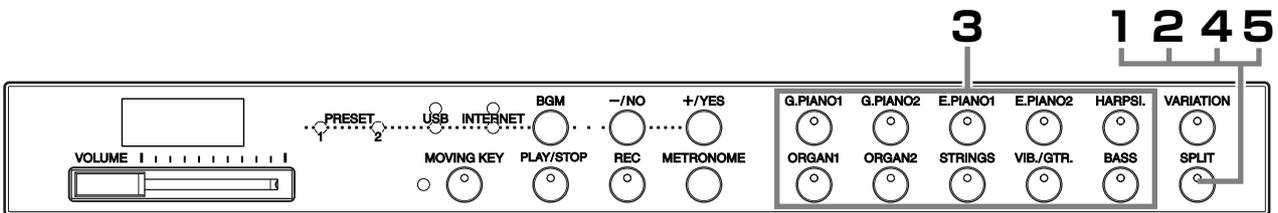
初期設定に戻す

[REC] と **[G. PIANO 1]** ボタンを押しながら、電源をオンにします。

F01 では、音色の設定を保存するかしないかの選択はできません。設定を変更するたびに、自動的に保存されます。電源を切ると消えてしまいます。

■ 鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く (スプリット)

鍵盤全体を左右の領域に分け、別々の音色で演奏することができます。左の領域で「BASS」などの音色でベースパートを、右の領域でメロディパートを演奏したりすることができます。



操作

1 スプリットモードに入る

[SPLIT] ボタンをオンにします。
 ⇨ この時点で、左側音色に初期設定の音色 [BASS] が選ばれます。

2 スプリットポイント (2音色の境め) を決める

[SPLIT] ボタンを押しながら、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。または、**[SPLIT]** ボタンを押しながら **[- /NO]** または **[+ /YES]** ボタンを押してスプリットポイントを移動します。
[SPLIT] ボタンを押している間はディスプレイにスプリットポイントの鍵盤名が表示されます。



スプリットとデュアル
 スプリットとデュアル(29ページ)を同時に使うことはできません。

スプリットポイントの鍵盤は左側に含まれます。

スプリットポイントの初期設定は、「F#2」です。

3 右側の音色を決める

演奏したい音色ボタンを押します。

4 左側の音色を決める

[SPLIT] ボタンを押しながら、演奏したい音色ボタンを押します。
右側音色、左側音色はそれぞれ、以下のような設定ができます。

2 音色の音量バランス設定

組み合わせる音色により、2 音色の音量バランスを設定します。

[METRONOME] ボタンを押しながら、F[#]5 ~ F[#]6 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。この間、ディスプレイには音量バランスが表示されます。

設定値が +6 に近づくほど右側音色の音量が大きくなります。設定値が 0 で同音量です。

オクターブシフトの設定

音程を 1 オクターブ上下にシフトさせます。右側音色と左側音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

[METRONOME] ボタンを押しながら、A4 ~ D5 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。この間、ディスプレイにはオクターブシフトの値が表示されます。

右側音色		
	A4	-1
	A [#] 4	0
	B4	+1

左側音色		
	C5	-1
	C [#] 5	0
	D5	+1

左側音色のリバーブの深さ設定 (F11)

[METRONOME] ボタンを押しながら、F[#]1 ~ F2 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。この間、ディスプレイにはリバーブの深さが表示されます。

ダンパーペダルの有効域設定

ダンパーペダル効果を両音色にかけるか、右側音色だけにかけるか、左側音色だけにかけるかを設定します。

[BGM] ボタンを押しながら、C0 ~ D0 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。この間、ディスプレイには有効域が表示されます。

C0	左側音色だけにかける
C [#] 0	両音色にかける
D0	右側音色だけにかける

5 スプリットモードを抜ける

[SPLIT] ボタンをオフにします。

スプリットのときのバリエーション

[SPLIT] ボタンを押していないときは、音色ボタンは右側の音色の状態を示します (右側の音色に選ばれている音色ボタンが点灯し、バリエーションがオンのときには [VARIATION] ボタンが点灯します)。[SPLIT] ボタンを押していないときに [VARIATION] ボタンを押すと、右側音色のバリエーションのオン/オフが切り替わります。

[SPLIT] ボタンを押している間は、音色ボタンは左側の音色の状態を示します (左側の音色に選ばれている音色ボタンが点灯し、バリエーションがオンのときには [VARIATION] ボタンが点灯します)。[SPLIT] ボタンを押しながら [VARIATION] ボタンを押すと、左側音色のバリエーションのオン/オフが切り替わります。

スプリットのときのリバーブ

右側の音色のリバーブ(33ページ)の種類が、採用されます。

初期設定

音色の組み合わせごとバランスが設定されています。

初期設定

音色の組み合わせごとオクターブが設定されています。

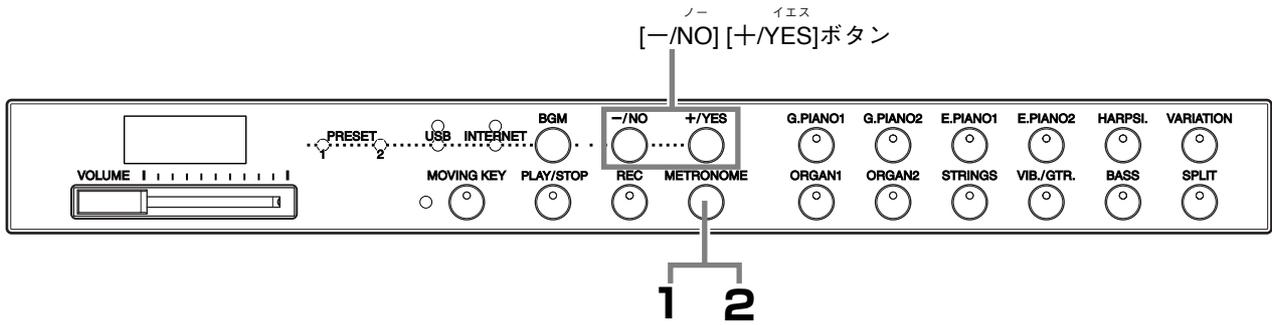
初期設定=F2

音色ごとに左側音色のリバーブの深さが設定されています。

スプリットダンパーペダルの有効域の初期設定は、「右側音色だけにかける」です。

メトロノームを使う

F11/F01 は、メトロノーム (ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具) を備えています。



操作

1 [METRONOME] を鳴らす

[METRONOME] ボタンをオンにします。



メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

音量の設定

メトロノームの音量を設定します。

[METRONOME] ボタンを押しながら、A-1 ~ F#0 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。この間、ディスプレイにはメトロノームの音量が表示されます。

テンポの調節

[- /NO] または [+ /YES] ボタンを押して、テンポの値を調節します。

テンポを調節する前に、[BGM] ボタンを押して、BGM モードをオフにします (12 ページ)。

拍子の設定

[METRONOME] ボタンを押しながら、A0 ~ D1 鍵盤ボタンを押して、拍子の値を設定します。この間、ディスプレイには拍子が表示されます。



拍子

2 メトロノームを止める

[METRONOME] ボタンをオフにします。

初期設定

F11: 7
F01: 5

テンポの値

F11: 5 ~ 500 (1 分間の拍数)、初期設定 = 120
ソングが選ばれているときは、そのソングのテンポになります。

F01: 32 ~ 280 (1 分間の拍数)、初期設定 = 120
ソングが選ばれているときは、そのソングのテンポになります。

メトロノームはご自身のピアノ練習用ですので、ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲の一部では楽曲とメトロノームのテンポが異なることがあります。

初期設定

0 (無拍子)

■ 音に残響を付ける (リバーブ)

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ (かかり具合) を変えることもできます。

操作

リバーブの種類設定

[METRONOME] ボタンを押しながら、G[#]6 ~ C7 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。この間、ディスプレイにはリバーブの種類が表示されます。

鍵盤	リバーブの種類	説明
G [#] 6	ルーム	部屋の中にいるような響きになります。
A6	ホール 1	小さいコンサートホールにいるような響きになります。
A [#] 6	ホール 2	大きいコンサートホールにいるような響きになります。
B6	ステージ	ステージにいるような響きになります。
C7	オフ	リバーブはかかりません。

[G. PIANO 1 または 2] の音色では、オフの場合でも、ピアノの響板の響き (サウンドボードリバーブ) を残すようになっています。

リバーブの深さ設定

[METRONOME] ボタンを押しながら、A2 ~ F[#]4 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。この間、ディスプレイにはリバーブの深さが表示されます。

初期設定

音色ごとにリバーブの種類 (オフも含む) が設定されています。

設定範囲

0 (効果なし) ~ 20 (深さ最大)

初期設定

音色ごとに標準の深さが設定されています。

■ キー (調) を変える (トランスポーズ)

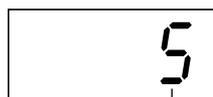
弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー (調) を合わせることができます。半音単位でトランスポーズを設定できます。

たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

操作

[BGM] ボタンを押しながら、F[#]5 ~ F[#]6 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。この間、ディスプレイにはトランスポーズ量が表示されます。

C6 鍵盤を押すと標準の音の高さになります。F[#]5 ~ B5 鍵盤を押すと半音単位でキーが下がり、C[#]6 ~ F[#]6 鍵盤を押すと半音単位でキーが上がります。



トランスポーズ量

トランスポーズ：移調する

移調：曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー (調) を変えること。

トランスポーズ量

F[#]5: -6 半音
C6: 標準の音の高さ
F[#]6: +6 半音

トランスポーズをかけた場合の発音域について

トランスポーズによって、G8 より高くなる音は 1 オクターブ下の音で、C-2 より低くなる音は 1 オクターブ上の音で発音します。

■ 音の高さの微調整をする (チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。鍵盤の割り当てについて詳しくは、別冊クイックオペレーションガイドを参照してください。

操作

音の高さを上げる (0.2Hz 単位)

A-1、B-1、およびC0を押しながら、C3～B3鍵盤のいずれかを押します。この間、ディスプレイには音の高さが表示されます。

100の位は表示されません。

例：432.0Hzの場合



音の高さを下げる (0.2Hz 単位)

A-1、B-1、およびC#0を押しながら、C3～B3鍵盤のいずれかを押します。この間、ディスプレイには音の高さが表示されます。

初期設定に戻す

A-1、B-1、C0、およびC#0を押しながら、C3～B3鍵盤のいずれかを押します。この間、ディスプレイには初期設定の高さが表示されます。

Hz(ヘルツ)とは

音の高さを示す単位です(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです)。

設定範囲

F11: 414.8～466.8 Hz

F01: 427.0～453.0 Hz

初期設定

440.0 Hz

■ タッチ感を変える (タッチ)

弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

操作

ビグニ
[BGM] ボタンを押しながら、A6～C7鍵盤を押します(別冊クイックオペレーションガイド)。この間、ディスプレイにはタッチの種類が表示されます。

鍵盤	タッチの種類	説明
A6	フィクスト	タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。
A#6	ソフト	軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつぶがそろいやすいタッチです。
B6	ミディアム	標準的なタッチです。
C7	ハード	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。

鍵盤の重さ自体は変わりません。

初期設定

B6(ミディアム)

タッチの種類は全音色に共通の設定となります。ただし、音色によっては、ここでの設定にかかわらず、タッチによる音の強弱がつかないものもあります。「音色一覧」(60ページ)をご参照ください。

演奏を録音（記録）する

F11/F01 の録音機能を使ってご自身の演奏を録音する方法を説明します。練習の中で、ご自身の演奏を録音して聞くことができます。F11/F01 本体に録音できるのは 1 曲のみです。

「録音」と「記録」

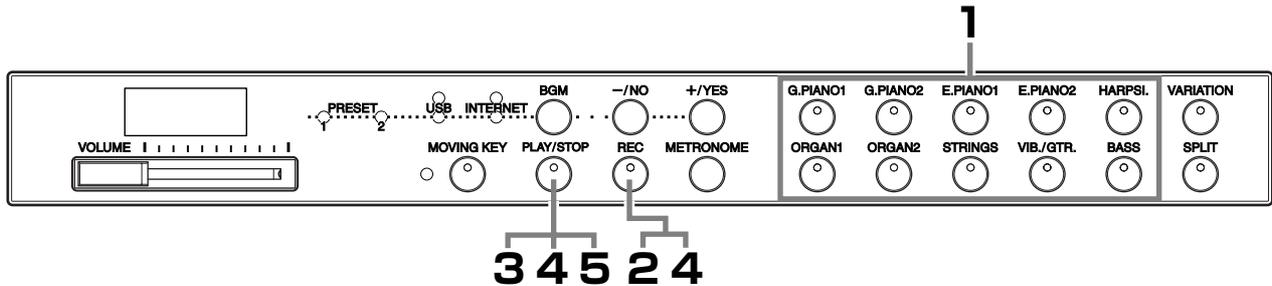
カセットテープに録音するのと F11/F01 の録音機能を使って録音（記録）するのでは、録音されるデータの形式が異なります。

カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、F11/F01 の録音機能では音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで…」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

F11/F01 の録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

別の録音方法

AUX OUT[L/L+R][R] 端子を使ってカセットテープレコーダーなどに接続し、オーディオ録音することもできます。



操作

1 BGM モードを抜ける

[BGM] ボタンを押して、BGM モードをオフにします (12 ページ)。

2 録音する音色（とそのほかの設定）を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定（テンポ、リバーブなど）も選んでください。[VOLUME] スライダーは弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも [VOLUME] スライダーで音量を調節することができます。

3 [REC] ボタンをオンにする

[REC] ボタンを押します。

⇒ [REC] ボタンが赤く点灯します。
現在のテンポのタイミングで [PLAY/STOP] ボタンが点滅します。

❗ 録音を中止する場合は、操作 4 で [PLAY/STOP] ボタンを押す前にもう一度 [REC] ボタンを押します。

❗ 録音をスタートすると、以前 F11/F01 に録音した演奏は消去されます。ご注意ください。

音色デモ曲やピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲などのソング再生中は

[REC] ボタンをオンにすることはできません。

テンポの設定方法は、32 ページを参照してください。

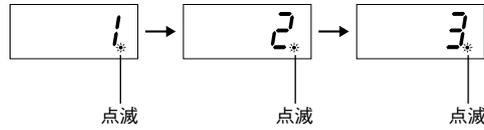
リバーブの設定方法は、33 ページを参照してください。

演奏を USB フラッシュメモリーに直接保存することはできません。楽器本体に録音した演奏を、USB フラッシュメモリーに保存してください (38 ページ)。

4 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、^{プレイ/ストップ}[PLAY/STOP] ボタンを押すと録音がスタートします。

☞ ディスプレイに録音中の小節番号がリアルタイムで表示され、右端の点点滅が現在のテンポのタイミングで点滅します。



5 録音をストップする

[PLAY/STOP] ボタンまたは [REC] ボタンを押します。

☞ 録音が完了すると、ディスプレイに「End」が3秒表示されます。

6 録音した曲の再生をスタートする

「録音した曲を再生する」(37 ページ) を参照してください。

■録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。

- ・ ノートデータ (弾いた音)
- ・ 音色
- ・ バリエーションの ON/OFF ^{オン/オフ}
- ・ ペダル操作 (ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- ・ リバーブの種類 (OFF ^{オフ} も含む)
- ・ リバーブの深さ
- ・ テンポ
- ・ 拍子
- ・ デュアルの音色
- ・ デュアル音量バランス
- ・ デュアルオクターブシフト
- ・ デュアルリバーブの深さ
- ・ スプリットの音色
- ・ スプリット音量バランス
- ・ スプリットオクターブシフト
- ・ スプリットリバーブの深さ

メトロノームを使う

メトロノームを鳴らしながら録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

録音中に記憶残容量が少なくなってきた場合

F01 では、[PLAY/STOP] と [REC] ボタンが点滅しだします。そして記憶残容量がなくなるとディスプレイに「FUL」のメッセージが出て録音が自動的にストップします(それまでの演奏データは録音され、残ります)。

録音したデータを削除するには

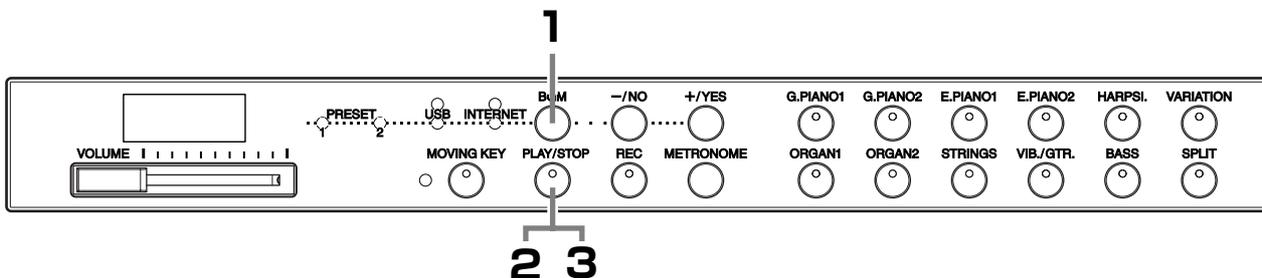
[REC] ボタンをオンにしたあと、[PLAY/STOP] ボタンで録音をスタートし、何もせず [PLAY/STOP] ボタンで録音をストップすると、録音したデータがすべて削除されます。

曲の途中から録音し直すことは、できません。

録音した曲を再生する

録音機能 (35 ページ) を使って録音した曲を再生します。再生しながら、ご自身で演奏することもできます。

録音した曲の再生データは、MIDI 送信されません。



操作

1 BGM モードを抜ける

ビーツ-エム
[BGM] ボタンを押して、BGM モードをオフにします (12 ページ)。

2 再生をスタートする

プレイ/ストップ
[PLAY/STOP] ボタンを押すと再生がスタートします。
⇒ ディスプレイにはスタート後、再生中の小節番号が表示されます。



再生しながら、演奏することもできます。この場合、録音された音色とは違う音色を選ぶと、再生音と違う音色で演奏することができます。

音量の調節

ボリューム
[VOLUME] スライダーで音量を調節します。

テンポの調節

再生中にテンポを変更することができます。変更方法は、32 ページを参照してください。

3 再生をストップする

曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生の途中でストップする場合は、[PLAY/STOP] ボタンを押します。

音色デモ曲の再生中 (27 ページ) や BGM モード (12 ページ) のときは録音した曲を再生できません。

録音データがないときは

プレイ/ストップ
[PLAY/STOP] ボタンを押しても再生はスタートしません。

F11 は、録音した曲の再生に合わせ、鍵盤を動かすことができます (自動演奏鍵盤)。詳しくは、「自動演奏鍵盤を鑑賞する (F11)」 (19 ページを参照してください)。

「連弾や2台のピアノのための曲の一方のパートを録音し、それを再生しながら自分でもう一方のパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

再生といっしょにメトロノームを使うこともできます。この場合、再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。

再生中にリバーブの種類を切り替えた場合 (F11)

再生中にリバーブの種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音も手弾き音もリバーブの種類が切り替わります。

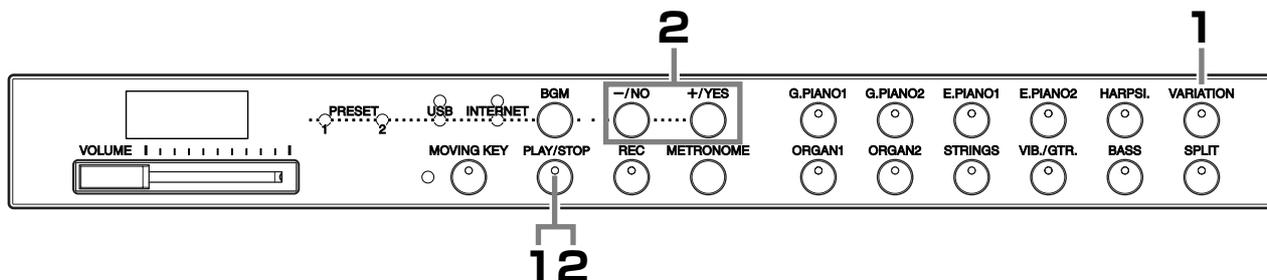
F01 では、再生中にリバーブの種類を切り替えることはできません。

テンポの初期設定

120

録音した曲を USB フラッシュメモリーに保存する

F11/F01 本体に録音できるのは、1 曲のみです。楽器本体に録音したご自分の演奏 (35 ページ) を、USB フラッシュメモリーに保存してください。



操作

1 保存モードに入る

USB フラッシュメモリーが楽器に接続されているのを確認してから、**[PLAY/STOP]** ボタンを押しながら **[VARIATION]** ボタンを押します。

2 USB フラッシュメモリーの中の保存場所 (メモリー領域) を選び、保存する

[- /NO] または **[+ /YES]** ボタンを押してメモリー領域を選び、**[PLAY/STOP]** ボタンを押します。F01 は、**[PLAY/STOP]** ボタンを押したあとに「n y(no/yes)」が表示されますので、**[+ /YES]** ボタンを押して保存します。保存が完了すると、ディスプレイに「End」が 3 秒表示され、保存モードを抜けます。

❗ 保存を中止する場合は、**[PLAY/STOP]** ボタンを押す前に **[PLAY/STOP]**、**[- /NO]**、および **[+ /YES]** ボタン以外のボタンを押します。

曲の上書き

すでに曲が保存されているメモリー領域を選んだときには、「U.0.0.」のように、ディスプレイの数字の間に点が表示されます。

上書きを中止するときは、**[PLAY/STOP]** ボタンを押して「n-y」が表示されたときに **[- /NO]** ボタンを押して、ほかの領域を選び直します。F01 では、**[PLAY/STOP]** ボタンを押したあとに「n y(no/yes)」が表示されますので、**[- /NO]** ボタンを押して、ほかの領域を選び直します。

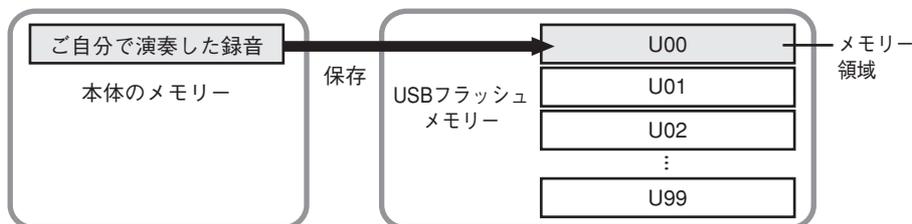
上書きをする場合は、**[PLAY/STOP]** ボタンを押して「n-y」が表示されたときに **[+ /YES]** ボタンを押します。F01 では、**[PLAY/STOP]** ボタンを押したあとに「n y(no/yes)」が表示されますので、**[+ /YES]** ボタンを押します。そのあと上書きを確認するために「n-y」が表示されますので、もう一度 **[+ /YES]** ボタンを押して上書きします。

保存が完了すると、ディスプレイに「End」が 3 秒表示され、保存モードを抜けます。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、最初に「USB記憶装置の取り扱いについて」(23ページ)をお読みください。

メモリー領域は、全部で100(U00～U99)です。

この楽器で録音した曲は、SMF[フォーマット0]の形式で保存されます。



インターネットダイレクト接続機能 (F11)

この機能を使って専用サイトのストリーミングサービスを利用することにより、さまざまなジャンルのソング(曲データ)を再生させ、BGMとして聞くことができます。楽器の自動演奏鍵盤機能を使えば、耳で聞くだけでなく目でも演奏が楽しめます。

ここでは、コンピューターや通信規格に関する用語が出てきます。わからない用語が出てきたら、「インターネット用語集」(46ページ)を参照してください。

ストリーミングとは
曲データを受信しながら再生する方式です。曲データのファイル保存はできませんが、何回でも呼び出すことができます。

楽器をインターネットに接続する準備

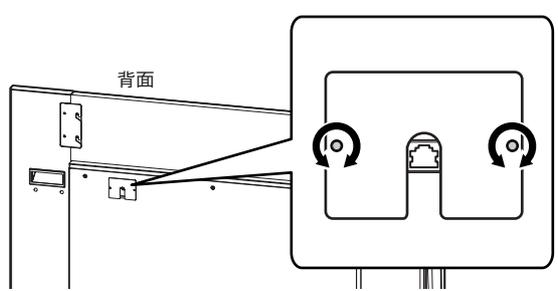
ブロードバンドルーターまたはルーター機能付きモデムを通して、楽器を常時接続回線(ADSL、光ファイバー、ケーブルテレビインターネット)に接続します。最新のサービス内容、具体的な接続方法(使用できる機器など)については、インターネット上の下記URLでご確認ください。

<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/>

モデムやブロードバンドルーターの設定は楽器上では行なえませんので、楽器を接続する前に、コンピューターでインターネットに接続してください。

また、インターネットで通信を行なうために、あらかじめインターネットプロバイダーとの契約をしておく必要があります。

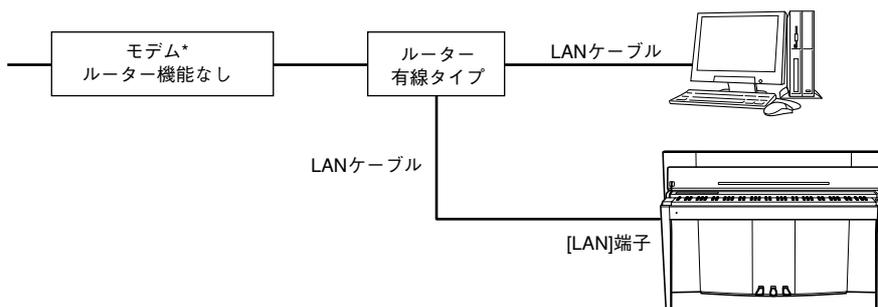
楽器の背面にある [LAN] 端子には板が取り付けられています。LAN ケーブルを [LAN] 端子に接続する場合は、左右2箇所にあるネジを手で回して板を取り外してください。



LAN ケーブル接続後は、板をネジで元どおりに取り付けてください。

インターネットの契約内容によっては、2台以上の機器(コンピューター、楽器など)に接続できない場合があります。この場合、楽器を接続することはできません。契約内容をご確認ください。

接続例 1：有線で接続する(ルーター機能のないモデムを使用)



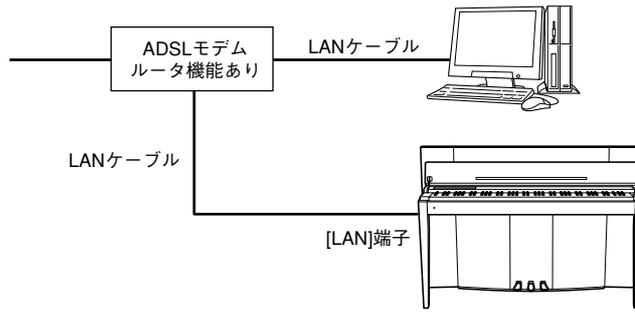
*モデム=ADSLモデム、ONU(光ネットワークユニット)、ケーブルモデム

ご用意いただくもの	LAN ケーブル
-----------	----------

LAN ケーブルは、[LAN] 端子に接続してください。

モデムの種類によっては、複数の機器(コンピューターと楽器など)を接続するために、別途イーサネットハブが必要な場合もあります。

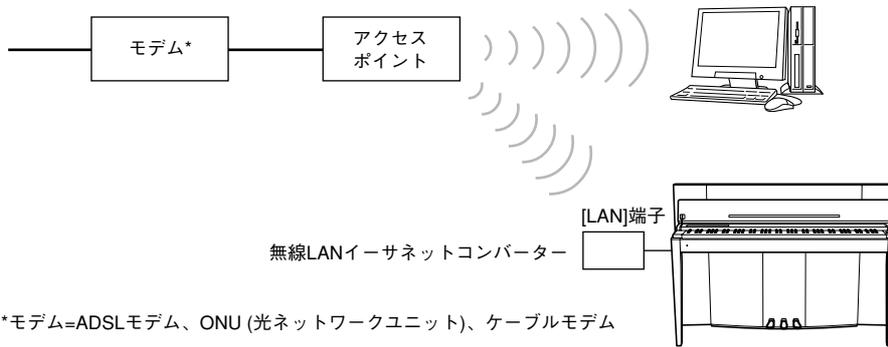
接続例 2 : 有線で接続する (ルーター機能のついているモデムを使用)



LAN ケーブルは、[LAN] 端子に接続してください。

ご用意いただくもの	LAN ケーブル
-----------	----------

接続例 3 : 無線で接続する (無線 LAN イーサネットコンバーターを使用)



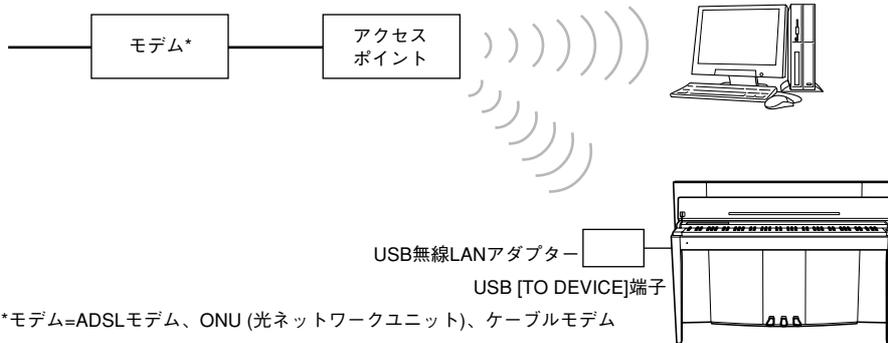
無線LAN イーサネットコンバーターは、[LAN] 端子に接続してください。

モデム、アクセスポイントのどちらかにルーター機能が必要です。

*モデム=ADSLモデム、ONU (光ネットワークユニット)、ケーブルモデム

ご用意いただくもの	無線 LAN イーサネットコンバーター
-----------	---------------------

接続例 4 : 無線で接続する (USB 無線 LAN アダプターを使用)



USB 無線 LAN アダプターは、USB [TO DEVICE] 端子に接続してください。

モデム、アクセスポイントのどちらかにルーター機能が必要です。

F11 が対応している暗号化方式は WEP のみです。

*モデム=ADSLモデム、ONU (光ネットワークユニット)、ケーブルモデム

ご用意いただくもの	USB 無線 LAN アダプター
-----------	------------------

楽器をインターネットに接続する

有線 LAN(DHCP 使用) をお使いの場合

楽器での設定は不要です。

ブロードバンドルーター、またはルーター機能付きモデムと楽器を LAN ケーブルで接続するだけでインターネットへの接続が可能です。

楽器がインターネットに正しく接続されると、^{ビージーエム}[BGM] ボタンで ^{インターネット}[INTERNET] ランプを選択したときに、ディスプレイにインターネット上のチャンネルが表示されます。

⇒ ストリーミングサービスを利用して、インターネット上の曲を再生することができます。再生方法については、「インターネットの曲を聞く (F11)」(25 ページ) をご覧ください。

有線 LAN(固定 IP アドレス、プロキシサーバー使用) をお使いの場合

楽器でのインターネット設定が必要です。

インターネット設定の方法については「インターネット設定について」(42 ページ) をご覧ください。

無線 LAN(無線 LAN イーサネットコンバーター) をお使いの場合

楽器での設定は不要です。

無線 LAN イーサネットコンバーターを楽器に接続するだけでインターネットへの接続が可能です。

*無線 LAN イーサネットコンバーターはアクセスポイントなどの設定が必要です。設定方法については使用される製品の取扱説明書をご覧ください。

楽器がインターネットに正しく接続されると、[BGM] ボタンで [INTERNET] ランプを選択したときに、ディスプレイにインターネット上のチャンネルが表示されます。

⇒ ストリーミングサービスを利用して、インターネット上の曲を再生することができます。再生方法については、「インターネットの曲を聞く (F11)」(25 ページ) をご覧ください。

無線 LAN(USB 無線 LAN アダプター) をお使いの場合

楽器でのインターネット設定が必要です。

インターネット設定の方法については「インターネット設定について」(42 ページ) をご覧ください。

一般的なブロードバンドルーターや一般的なルーター機能付きモデムには DHCP 機能があります。

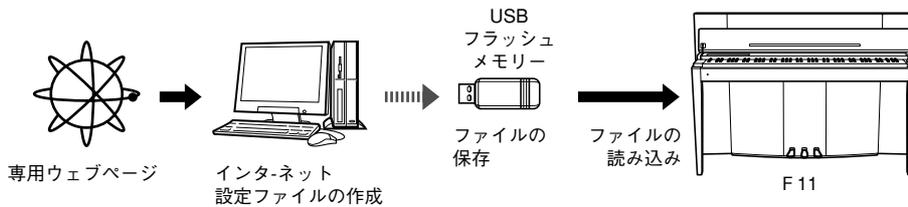
インターネット設定について

インターネット設定は、コンピューターを使って専用ウェブページ上で行ないます。有線 LAN(固定 IP アドレス、プロキシサーバー使用)、または無線 LAN(USB 無線 LAN アダプター)をお使いの場合は、ここでの設定を行なってください。

有線LAN(DHCP 使用)、または無線 LAN(無線 LAN イーサネットコンバーター)をお使いの場合は、ここでのインターネット設定は不要です。

(インターネット設定)

初めてインターネットダイレクト接続機能を利用するときは、以下の流れでインターネット設定を行ないます。コンピューターで作成した設定ファイルを楽器に読み込むしくみですので、各種設定の入力といった面倒な操作を楽器本体で行なう必要はありません。



詳しくは、インターネット上のウェブページ

<<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/>>をお読みください。

インターネット設定の内容はバックアップされます。

インターネット設定ファイルを作成する

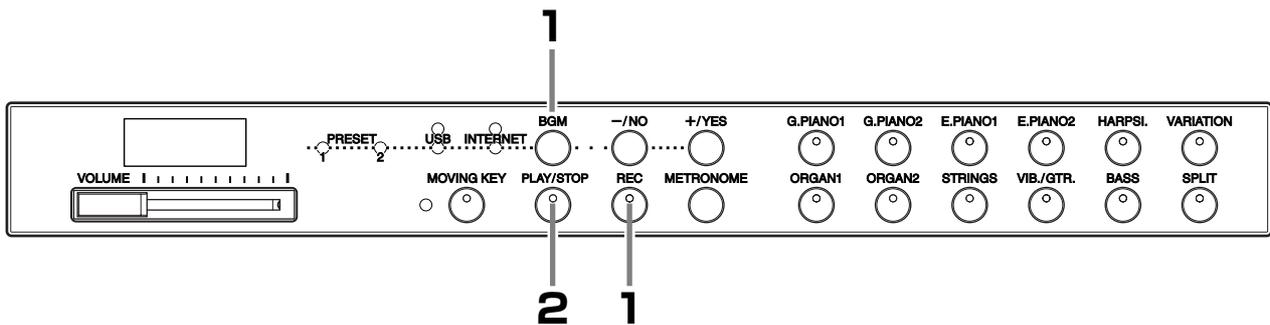
インターネット設定には、あらかじめコンピューターを使って専用ウェブページ上でインターネット設定ファイルを作成しておく必要があります。

インターネット設定ファイルの作成方法は、ウェブページ

<<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/>>の説明をお読みください。

インターネット設定ファイルを読み込む

コンピューターを使って専用ウェブページ上で作成したインターネット設定ファイルを楽器に読み込み、インターネット設定を行ないます。



操作

1 読み込みモードに入る

インターネット設定ファイル「config.n21」が保存されている USB フラッシュメモリーが、楽器に接続されているのを確認してから、**[BGM]** ボタンを押しながら **[REC]** ボタンを押します。



❗ 読み込みを中止する場合は、操作 2 で **[PLAY/STOP]** ボタンを押す前に **[PLAY/STOP]** ボタン以外のボタンを押します。

インターネット設定ファイル「config.n21」はウェブページ上で作成します(42ページ)。

音色デモ曲の再生中(27ページ)、**[REC]**ボタン(35ページ)がオンするときやBGMモード(12ページ)のとき、録音した曲の再生中(37ページ)は、読み込みモードには入れません。

2

読み込みをスタートする

プレイ/ストップ
[PLAY/STOP] ボタンを押します。

- ⇒ USB フラッシュメモリーからの読み込みが完了すると、ディスプレイに「End」が表示されます。「End」表示を消すには、いずれかのボタンを押します。



- ⇒ 読み込みが完了すると、インターネットダイレクト接続に必要なインターネット設定が完了します。

楽器がインターネットに正しく接続されると、[BGM] ボタンで [INTERNET] ランプを選択したときに、ディスプレイにインターネット上のチャンネルが表示されます。

ストリーミング再生の方法については「インターネットの曲を聞く (F11)」（25 ページ）をご参照ください。

読み込みが正常に完了しなかった場合は、ディスプレイに「Err」とエラーコードが交互に表示されます。

エラーコード

エラーコードの内容については、インターネット上のウェブページ < <http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/> > で、ご確認ください。

インターネット設定ファイルはバックアップ (52 ページ) をとっておくことをおすすめします。

無線 LAN の電波強度を表示する (USB 無線 LAN アダプターをお使いの場合)

USB 無線 LAN アダプターをお使いになる場合 (40 ページの接続例 4) は、以下の方法で電波強度をディスプレイに表示させることができます。

ビジーエム [BGM] ボタンを押しながら バリエーション [VARIATION] ボタンを押します。

- ⇒ ディスプレイに電波強度が約 3 秒間表示されます。

< 電波強度の表示パターン >

電波状態	ディスプレイ
電波が届いていない	
電波強度 弱	
電波強度 中	
電波強度 強	
無線 LAN が使われていない	

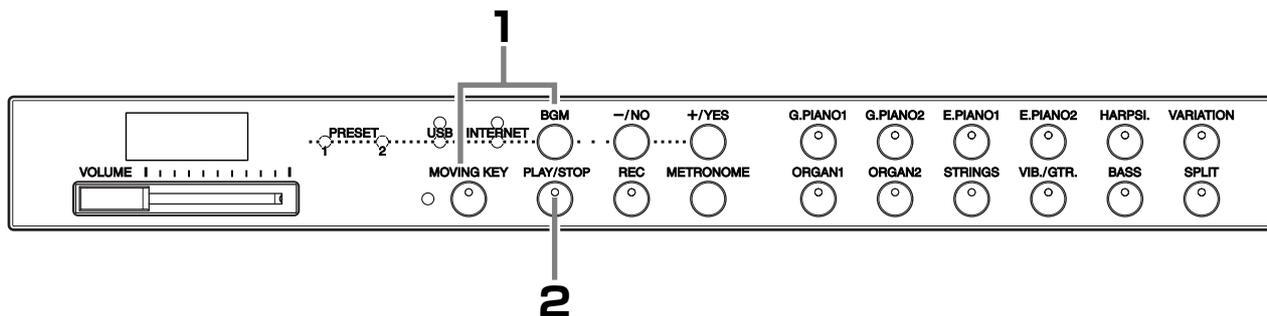
電波強度はインターネットへの接続後、表示させることができます。

無線 LAN イーサネットコンバーターをお使いの場合は、「無線 LAN が使われていない」の表示になります。

■ 接続情報ファイルを書き出す

現在の接続情報の詳細をテキストファイルとしてUSBフラッシュメモリーに書き出します。書き出した情報はコンピューター上で見るができます。

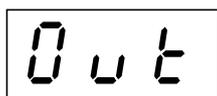
接続情報ファイルを使ってインターネット設定(42ページ)をすることはできません。接続情報ファイルは閲覧のみ可能です。



操作

1 書き出しモードに入る

USBフラッシュメモリーが楽器に接続されているのを確認してから、**[BGM]** ボタンを押しながら **[MOVING KEY]** ボタンを押します。



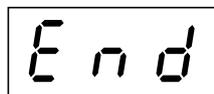
❗ 書き出しを中止する場合は、操作2で **[PLAY/STOP]** ボタンを押す前に **[PLAY/STOP]**、**[-/NO]**、および **[+/YES]** ボタン以外のボタンを押します。

2 書き出しをスタートする

[PLAY/STOP] ボタンを押します。

USBフラッシュメモリーに同じ名前のファイルがある場合には、ディスプレイに「n-y」が表示されます。上書きをする場合には、**[+/YES]** ボタンを押してください。書き出しを中止する場合には、**[-/NO]** ボタンを押してください。

⇒ USBフラッシュメモリーへの書き出しが完了すると、ディスプレイに「End」が表示されます。「End」表示を消すには、いずれかのボタンを押します。



書き出しが完了したあと、USBフラッシュメモリーをコンピューターに接続して、「ConnectionInfo.txt」という名前のファイルを開くと接続情報の詳細が表示されます。

音色デモ曲の再生中(27ページ)、**[REC]** ボタン(35ページ)がオンのときやBGMモード(12ページ)のとき、録音した曲の再生中(37ページ)は、書き出しモードには入れません。

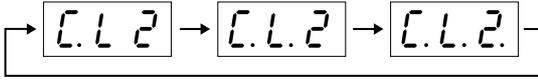
書き出しが正常に完了しなかった場合は、ディスプレイに「Err」とエラーコードが交互に表示されます。

エラーコード

エラーコードの内容については、インターネット上のウェブページ <<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/>> で、ご確認ください。

インターネット設定を初期化する

ビジーエム [BGM] ボタンと プレイ/ストップ [PLAY/STOP] ボタンを押しながら、楽器の電源をオンにすると、インターネット設定が初期化されます。



- ❗ 初期化を実行すると、インターネット設定で行なったすべての設定が工場出荷時の状態に戻ります。初期化を行なう前にインターネット設定のバックアップをとっておくことをおすすめします。バックアップの方法は「データのバックアップ (F11)」(52 ページ) をご覧ください。
- ❗ 初期化中は電源を切らないでください。初期化が実行されません。

インターネットダイレクト接続機能のインターネット設定は、「初期設定に戻す」(52 ページ) では初期化されません。

ストリーミングチャンネル情報、クッキー (Cookie) もあわせて初期化されます。

インターネット 初期設定一覧

DHCP	使用する
無線 LAN	設定なし
プロキシサーバー	設定なし

インターネット用語集

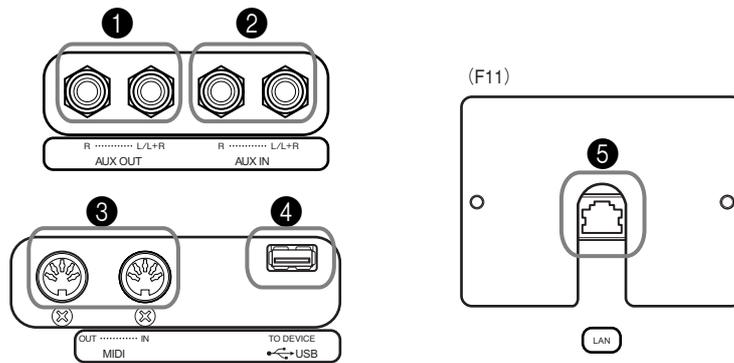
アクセスポイント	無線 LAN で電波のやりとりを行なうときの基地局となる機器。無線 LAN を有線 LAN につなぐ役割も持つ。
インターネット	コンピューター間の通信規格にもとづいて、世界中のコンピューターや携帯電話などを接続した、巨大なネットワークのこと。
ウェブページ	サイトを構成する各ページのこと。
クッキー (Cookie)	ユーザーがウェブページとの間でやりとりした内容を記憶するしくみ。以前訪れたウェブページで、そのときに入力した内容があらかじめ表示されるのはこのしくみによるもの。
サイト	正式には「ウェブサイト」という。ひとまとまりに公開されているウェブページ群。たとえば、「http://www.yamaha.co.jp/」で始まるウェブページを「ヤマハのサイト」と呼ぶ。
サーバー	ある特定のサービスを提供するシステムやコンピューターのこと。
ストリーミング	音声などのデータを受信しながら再生する方式のこと。データのファイル保存はできないが、何回でも呼び出すことができる。
ダウンロード	ネットワークを通じて、サーバーに保存されているデータをお使いのコンピューターや携帯電話などに転送すること。この楽器では、ウェブサイトからソングなどのデータを楽器に送ることを指す。
ブラウザ	ウェブページを閲覧するためのソフトウェア。この楽器では、ウェブページの内容を表示する画面のこと。
プロキシ	LAN (内部のネットワーク) とインターネット (外部のネットワーク) の境にあって、直接インターネットに接続できない内部ネットワークのコンピューターに代わって、「代理」としてインターネットとの接続を行なうコンピューターのこと。内部ネットワークを外部からの不正アクセスから守ったりするのに使われる。
ブロードバンド	大容量のデータを高速に通信できるインターネット接続サービスのこと。ADSL、光ファイバーなどがある。
プロバイダー	インターネット接続サービスを提供する通信事業者。インターネットに接続するには、プロバイダーと契約する必要がある。
ホームページ	ブラウザ起動時 (インターネット機能に入ったとき) に最初に表示されるウェブページのこと。または、ウェブサイトのトップページのことを指すこともある。
無線 LAN	ケーブルを使わず、無線通信でデータの送受信をする LAN のこと。
無線 LAN イーサネットコンバーター	LAN 端子を搭載したデジタル家電、プリンター、ゲーム機などを簡単に無線化するための機器。
モデム	一般の電話回線とコンピューターをつなぐための装置。コンピューターから送られてくるデジタル信号を、電話回線に流す音声信号に変換したり、電話回線を通じて聞こえてくる音声信号をデジタルデータに変換したりする。
リンク	ウェブページ上のボタンや文字列に埋め込まれたほかの文章や画像などの位置情報のこと。リンクのある場所をクリックするとリンク先へジャンプする。
ルーター	異なるネットワーク同士を相互接続するための機器。たとえば家庭などで複数のコンピューターを同時にインターネットに接続して、それぞれに異なるはたらきをさせたい場合に必要となる。一般的にはモデムとコンピューターの間に接続するが、モデム自体にルーター機能が内蔵されているものもある。
DHCP	インターネットに接続するたびに、コンピューターに IP アドレスなどの必要な情報を自動的に割り当てるための規格。
IP アドレス	ネットワークに接続されたコンピューター 1 台 1 台に割り振られた、ネットワーク上の所在を示す識別番号。

LAN	同じ建物の中にあるコンピューター同士を専用のケーブルで接続し、データをやり取りするネットワーク。 Local Area Network の略。
SSL	インターネット上で情報を暗号化して送受信する通信規格。プライバシーに関わる情報がもれるのを防ぐ。
URL	インターネット上に存在するウェブページの場所を指し示す文字列。通常は、「http://」で始まる。
WEP	無線 LAN 時の暗号化技術。無線 LAN のアクセスポイントと端末に共通の暗号キーを設定することで、データを暗号化し、第三者による傍受を防ぐ。

外部機器との接続

■ 端子について

- ❗ 外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電または機器の損傷のおそれがあります。

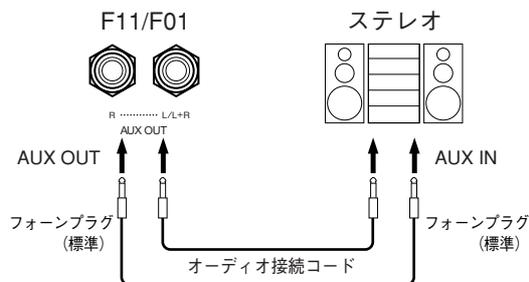


エーユーエックスアウト

❶ AUX OUT [L/L+R] [R] 端子

F11/F01 をステレオなどに接続してより大きな音を出したり、カセットテープレコーダーなどに接続して演奏を録音したりできます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

- ❗ F11/F01 の AUX OUT を使う場合、電源を入れるときは F11/F01 → 外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器 → F11/F01 の順に行なってください。



オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

エーユーエックスイン AUX IN から入力された音を エーユーエックスアウト AUX OUT に出力することはできません。

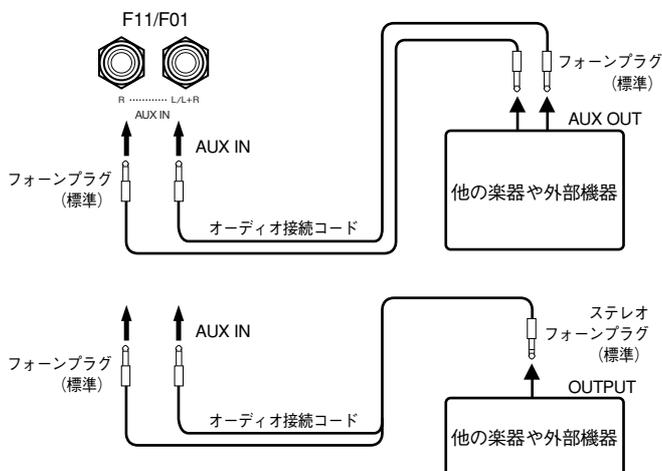
AUX OUT から出力した音を AUX IN に戻すと、AUX IN から入力された音は F11/F01 のスピーカーから出力されます。スピーカーから出力される音は大音量となり音が割れることがありますので、ご注意ください。

モノ出力には、AUX OUT[L/L+R] 端子をご使用ください。

② AUX IN [L/L+R] [R] 端子

他の楽器や外部機器の音を F11/F01 のスピーカーから出すことができます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

❗ F11/F01 の AUX IN を使う場合、電源を入れるときは外部機器 → F11/F01 の順に、電源を切るときは、F11/F01 → 外部機器の順に行なってください。



AUX IN からの入力音には F11/F01 のボリュームは効きますが、リバーブは効きません。

モノ入力には、AUX IN[L/L+R] 端子をご使用ください。

③ USB [TO DEVICE] 端子

USB フラッシュメモリーを接続する端子です。詳しくは 23 ページの「USB 記憶装置の取り扱いについて」をご覧ください。

④ MIDI [IN][OUT] 端子

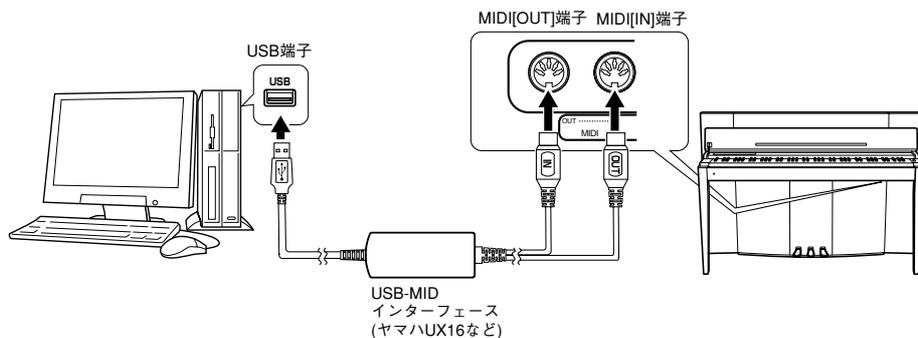
MIDI 接続専用のケーブルを使って外部 MIDI 機器と接続する端子です。詳しくは 50 ページの「MIDI について」をご覧ください。

⑤ [LAN] 端子 (F11)

楽器を直接インターネットに接続して、曲をストリーミングできます。接続の仕方については、39 ページを参照してください。

■ コンピューターと接続する

コンピューターと F11/F01 を接続することにより、F11/F01 の演奏情報をコンピューターで活用したり、コンピューターから演奏情報を受信して F11/F01 で鳴らすことができます。



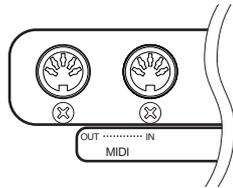
USB 端子付属のコンピューターと F11/F01 を接続するには、UX16(別売)のような「USB-MIDI インターフェース」が必要です。楽器店などでお買い求めください。UX16 を使用するとき、UX16 に付属のドライバーをコンピューターにインストールしてください。

ミディ MIDI について

^{ミディ}MIDI(Musical Instrument Digital Interface) とは、MIDI 端子を備えた MIDI 機器間や、MIDI 機器とパーソナルコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

MIDI 機器間 (MIDI 機器とパーソナルコンピューター間) で MIDI データを送受信することにより、F11/F01 から外部の ^{ミディ}MIDI 機器の演奏をコントロールしたり、外部の MIDI 機器やパーソナルコンピューターから F11/F01 をコントロールしたりすることができます。

MIDI 端子



- MIDI [IN]** : MIDI データを受信する端子です。
MIDI [OUT] : MIDI データを送信する端子です。

MIDI ケーブル

専用の MIDI ケーブルをご用意ください。

MIDI の送信チャンネル設定

MIDI 楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側で MIDI チャンネル (1 ~ 16 チャンネル) を合わせておく必要があります。ここで F11/F01 から MIDI データを送信するときのチャンネルを設定します。

^{ボグー}[BGM] ボタンを押しながら、C1 ~ E2 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。

デュアルのときの第 2 音色、スプリットのときの左側音色は

F11: デュアルのときには、ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます (第 1 音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます)。スプリットのときは、ここで設定したチャンネルの 2 つ次のチャンネルで送信されます (右側音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます)。ただし、上記設定チャンネルを OFF に設定した場合は送信されません。

F01: ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます (第 1 音色、右側音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます)。ただし、上記設定チャンネルを OFF に設定した場合は送信されません。

^{ミディ}MIDI では、演奏データや命令を、数値に置き替えたデータで送受信します。

^{ミディ}MIDI 機器の中でも、機種ごとに送受信できる MIDI データの内容が同じではないため、接続している MIDI 機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、各機種の「MIDI インプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。

YAMAHA ^{ミディ}MIDI ケーブル

- MIDI01(長さ 1m)
- MIDI03(長さ 3m)
- MIDI15(長さ 15m)

^{ミディ}MIDI についての詳しい知識は、各種の音楽雑誌や書籍で得ることができます。

選択範囲

1 ~ 16、OFF(送信しない)

初期設定

1

音色デモ曲 / ピアノリスニングソング (Classic&Jazz) 50 曲 / 録音した曲の再生などのソングデータは、MIDI 送信されません。

MIDI の受信チャンネル設定

MIDI 楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側で MIDI チャンネル (1 ~ 16 チャンネル) を合わせておく必要があります。ここで F11/F01 が MIDI データを受信するときのチャンネルを設定します。

[BGM] ボタンを押しながら、C3 ~ F4 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。

ALL の場合は、「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部 MIDI 機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、F11/F01 で受信して再生させることができます。

「1&2(F01のみ)」の場合は、シーケンサーなどの外部 MIDI 機器から 1、2 チャンネルのデータだけ受信し、F01 本体で再生することができます。F11/F01 本体のパネル設定や手弾き音は、F11 で 1 ~ 16 チャンネルを選んでいる場合のみ、送信されてくるプログラムチェンジ (音色切り替え) などのチャンネルメッセージから影響を受けます。

ローカルコントロールの ON/OFF 設定

通常、F11/F01 の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロール ON」と呼ばれます。「ローカルコントロールを OFF」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても F11/F01 からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データは MIDI 送信されますので、F11/F01 では音を鳴らさずに MIDI 接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールを OFF にします。

[BGM] ボタンを押しながら、C5 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。

プログラムチェンジの送受信 ON/OFF 設定

MIDI で送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。たとえば F11/F01 からプログラムチェンジを送信すると MIDI 接続した外部機器の音色を切り替えることができます (F11/F01 のパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます)。逆に MIDI 接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジを F11/F01 が受信すると、同時に受信している MIDI の演奏データの音色が切り替わります (このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません)。

このプログラムチェンジの送受信をする場合 (MIDI 接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合) は ON に、送受信をしない場合 (MIDI 接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合) は OFF にします。

[BGM] ボタンを押しながら、C#5 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。各音色のプログラムチェンジナンバーについては「各音色のプログラムチェンジナンバー」(65 ページ) をご覧ください。

コントロールチェンジ送受信 ON/OFF の設定

MIDI で送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。たとえば F11/F01 からコントロールチェンジを送信すると MIDI 接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます (F11/F01 でダンパーペダルを操作したときなどにコントロールチェンジが送信されます)。逆に MIDI 接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジを F11/F01 が受信すると、同時に受信している MIDI の演奏データがそれに反応します (F11 で 1 ~ 16 チャンネルを選んでいる場合にのみ鍵盤での手弾き音は影響を受けます)。このコントロールチェンジの送受信をする場合は ON に、送受信をしない場合は OFF にします。

[BGM] ボタンを押しながら、D5 鍵盤を押します (別冊クイックオペレーションガイド)。F11/F01 がコントロールチェンジとして扱える情報についてはデータリストの「MIDI データフォーマット」をご覧ください。データリスト (6 ページ) は、ヤマハのウェブサイトからダウンロードできます。

選択範囲

ALL、1&2(F01のみ)、1 ~ 16

初期設定

ALL

選択範囲

ON/OFF

初期設定

ON

選択範囲

ON/OFF

初期設定

ON

選択範囲

ON/OFF

初期設定

ON

データのバックアップ (F11)

■ 内部メモリーにバックアップする

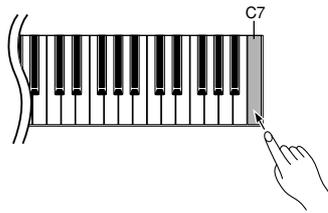
一部のデータは、本体内部のメモリーに保存されます。電源を切っても消えずに残ります。

■ バックアップ対象のデータ

BGM モード
メトロノームの拍子と音量
自動演奏鍵盤のオン/オフ
スプリットポイント
音の高さ (チューニング)
文字種
インターネット設定
ストリーミングチャンネル情報
Cookie

初期設定に戻す

いったん電源をオフにし、右端の鍵盤 (C7) を押しながら電源をオンにします。この操作でいつでも初期設定に戻すことができます。



- ❗ 初期化を実行すると、楽器の設定が工場出荷時の状態に戻ります。初期化を行なう前に設定のバックアップをとっておくことをおすすめします。
- ❗ 初期化中は電源を切らないでください。初期化が実行されません

インターネットの設定を初期設定に戻すには、「インターネット設定を初期化する」(45 ページ) を参照してください。

文字種の設定は初期化されませんので、文字種の設定 (20 ページ) を変えてください。

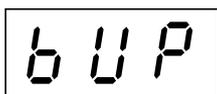
■ USB フラッシュメモリーにバックアップする

内部メモリーに保存したデータ [「内部メモリーにバックアップする」(52 ページ)、音色の設定(30 ページ)、および録音した演奏データ(35 ページ)] の万一の事故に備えて、大切なデータは USB フラッシュメモリーにバックアップとして保存することをおすすめします。

操作

1 バックアップモードに入る

USB フラッシュメモリーが楽器に接続されているのを確認してから、^{レコー}[REC] ボタンを押しながら、^{バリエーション}[VARIATION] ボタンを押します。



❗ バックアップを中止する場合は、操作2で [PLAY/STOP] ボタンを押す前に [PLAY/STOP]、[- /NO]、および [+ /YES] ボタン以外のボタンを押します。

2 バックアップをスタートする

^{プレイ/ストップ}[PLAY/STOP] ボタンを押します。

USB フラッシュメモリーに同じ名前のファイルがある場合には、ディスプレイに「n-y」が表示されます。上書きをする場合には、^{はい}[+ /YES] ボタンを押してください。上書きをしない場合には、^{いいえ}[- /NO] ボタンを押してください。バックアップが完了すると、ディスプレイに「End」が表示されます。

3 バックアップモードを抜ける

[- /NO] または [+ /YES] を押します。

バックアップしたデータは、「F11.bup」です。

データをリストアする

USB フラッシュメモリーに保存したデータを本体にリストア (復帰) します。

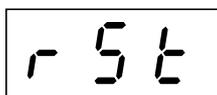
操作

1 バックアップモードに入る

リストアしたいデータの入った USB フラッシュメモリーが楽器に接続されているのを確認してから、**[REC]** ボタンを押しながら、**[VARIATION]** ボタンを押します。

2 リストアモードに切り替える

[+ /YES] ボタンを押します。



リストアを中止する場合は、操作 3 で **[PLAY/STOP]** ボタンを押す前に **[PLAY/STOP]**、**[- /NO]**、および **[+ /YES]** ボタン以外のボタンを押します。

3 リストアをスタートする

[PLAY/STOP] ボタンを押します。

リストアが完了すると、ディスプレイに「End」が表示されます。

4 リストアモードを抜ける

[- /NO] または **[+ /YES]** を押します。

データのバックアップ (F01)

■ 内部メモリーにバックアップする

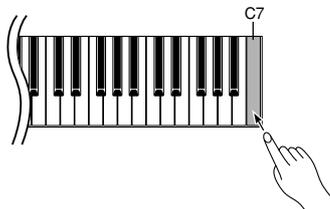
一部のデータは、本体内部のメモリーに保存されます。電源を切っても消えずに残ります。

■ バックアップ対象のデータ

- メトロノームの拍子と音量
- 音の高さ (チューニング)
- 文字種

初期設定に戻す

いったん電源をオフにし、右端の鍵盤 (C7) を押しながら電源をオンにします。この操作でいつでも初期設定に戻すことができます。



- ❗ 初期化を実行すると、楽器の設定が工場出荷時の状態に戻ります。初期化を行なう前に設定のバックアップをとっておくことをおすすめします。
- ❗ 初期化中は電源を切らないでください。初期化が実行されません。

文字種の設定は初期化されませんので、文字種の設定 (20 ページ) を変えてください。

■ コンピューターにバックアップする

バックアップするためには、下記 URL からミュージックソフトダウンローダーをダウンロードし、ご使用のコンピューターにインストールする必要があります。

<http://www.yamaha.co.jp/download/msd/>

ミュージックソフトダウンローダーを使用するために必要なコンピューターシステム

- | | |
|-----------|---|
| ・ OS | : Windows® 98SE/Me/2000/XP/Vista
XP, Vista は 32bit 版のみ対応、64bit 版には非対応です。 |
| ・ CPU | : 233MHz 以上 (500MHz 以上推奨) の Intel® Pentium® および Celeron® ファミリー |
| ・ メモリー | : 64MB 以上 (256MB 以上推奨) |
| ・ ハードディスク | : 128MB 以上の空き領域 (512MB 以上推奨) |
| ・ ディスプレイ | : 800 × 600 HighColor (16-bit) |
| ・ その他 | : Microsoft® Internet Explorer® 5.5 以上がインストールされていること |

ミュージックソフトダウンローダーを使って、内部メモリーに保存したデータ [「内部メモリーにバックアップする」(上記参照)のデータや録音した演奏データ (35 ページ)] の万一の事故に備えて、大切なデータはコンピューターにバックアップとして保存することをおすすめします。

バックアップするデータをコンピューターに送信する方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

ミュージックソフトダウンローダーのソフトウェアは、無料でダウンロードできます。

- ⊘ データ通信中は電源を切ったり、電源プラグを抜き差ししないでください。データが保存されないだけでなく、フラッシュメモリーの動作が不安定になり、メモリー内容が電源入 / 切時にすべて消える可能性があります。

楽器の操作をするためには、ミュージックソフトダウンローダーの画面を閉じて終了させる必要があります。

バックアップするデータは、「F01.bup」です。

■ データをリストアする

コンピューターに保存したデータ（「07F01.bup」）を本体にリストア（復帰）します。コンピューターからリストアするデータを楽器に読み込む方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
F11/F01 の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(14、15 ページ)。
[POWER] ^{パワー} スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	異常ではありません。
F11/F01 から雑音が出る。	F11/F01の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	F11/F01 の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。F11/F01 の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	[VOLUME] ^{ボリューム} スライダーが下がっています。	[VOLUME] スライダーを上げてください(16 ページ)。
	ヘッドフォンを接続しています(16 ページ)。	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	ローカルコントロールが OFF ^{オフ} になっています。	ローカルコントロールを ON ^{オン} にしてください(51 ページ)。
自動に鍵盤が動かない (F11)	[MOVING KEY] ^{ムービングキー} ボタンがオフになっています。	[MOVING KEY] ボタンをオンにしてください(19 ページ)。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤が動くとき、機構音がカタカタ鳴る。	F11/F01 の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。
USB フラッシュメモリーがフリーズする。	動作確認されていない USB フラッシュメモリーです。	動作確認されている USB フラッシュメモリー以外は動作しない可能性があります。動作確認済みの USB フラッシュメモリーをご使用ください(23 ページ)。
	USB フラッシュメモリーの動作が不安定になっています。	USB フラッシュメモリーをいったん外してから、接続し直してください。
(F11) 鍵盤下のカバーが温くなる。	使用中に熱を発生することがあります。	異常ではありません。

ピアノリスニングソング (Classic&Jazz) 50曲一覧

[PRESET 1](Classic)

ソング No.	シーン No.	シーンタイトル												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	ソング名 (作曲者)	ホームパーティ	目覚め	喜び	優雅	くつろぎ	おやすみ	哀しみ	ロマンス	メルヘン	バロック古典	ロマン派前期	ロマン派後期	フランス近代
1	ソナタ K.380, L.23 (D. スカルラッチィ)		1								1			
2	ゴルトベルク変奏曲 アリア BWV.988 (J.S. バッハ)					1	1				2			
3	ピアノ ソナタ 第5番 第1楽章 K.283 (W. A. モーツァルト)			2	1						3			
4	ピアノ ソナタ 第12番 第1楽章 K.332 (W. A. モーツァルト)	1	3	2							4			
5	ピアノ ソナタ 第14番 「月光」 第1楽章 op.27-2 (L. v. ベートーヴェン)	2						1			5			
6	春の歌 op.62-6 (F. メンデルスゾーン)	3			1						6			
7	練習曲 「別れの曲」 op.10-3 (F. F. ショパン)	4						2	1			1		
8	練習曲 「エオリアン ハープ」 op.25-1 (F. F. ショパン)	5		3						2		2		
9	ワルツ 第7番 op.64-2 (F. F. ショパン)							3				3		
10	ワルツ 第10番 op.69-2 (F. F. ショパン)							4				4		
11	夜想曲 第1番 op.9-1 (F. F. ショパン)							5	3			5		
12	夜想曲 第2番 op.9-2 (F. F. ショパン)	6			2	2			4			6		
13	子供の情景 トロイメライ op.15-7 (R. シューマン)	7				3	2			1	7			
14	コンソレーション 第3番 (F. リスト)					4			5				1	
15	へ調のメロディ op.3-1 (A. ルビンシュテイン)	8			3								2	
16	ユモレスク op.101-7 (A. ドヴォルジャーク)	9			4					2			3	
17	抒情小品集 第1集 アリエッタ op.12-1 (E. H. グリーグ)	10				5	3			3			4	
18	無言歌 op.17-3 (G. フォーレ)				5									1
19	愛のあいさつ op.12 (E. エルガー)	11	4	4	6								5	
20	森のスケッチ 野ばらに寄す op.51-1 (E. A. マクダウェル)					6	4			4			6	
21	スペイン タンゴ op.165-2 (I. アルベニス)	12		5	7								7	
22	亜麻色の髪の乙女 (C. A. ドビュッシー)	13				7	5							2
23	アラバスク 第1番 (C. A. ドビュッシー)	14				8								3
24	月の光 (C. A. ドビュッシー)	15					8							4
25	夢想 (C. A. ドビュッシー)						9	6						5
26	ジムノペディ 第1番 (E. サティ)						10	7						6
27	ジュトゥヴ (E. サティ)	16		6	9									7
28	亡き王女のためのパヴァーヌ (M. ラヴェル)	17					11	6						8
29	クーブランの墓 メヌエット (M. ラヴェル)	18					12							9
30	ボロディン風に (M. ラヴェル)					10								10

- ・ シーンタイトルの下の数字は、各シーンでの曲順を示します。
- ・ 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

[PRESET 2](Jazz 曲)

ソング No.	シーン No. シーンタイトル ソング名 (作曲者)	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
		ホームパーティ	デイタイム	アフターヌーン	イブニング	ナイトタイム	エレガント	アップビート	バラード	イノセント	ロマンス
1	Alfie (B. Bacharach) *	1		1						1	
2	Besame Mucho (C. Velazquez) *				1				1		1
3	Bewitched (R. Rodgers)			2			1		2		2
4	Emily (J. Mandel) *	2	1	3				1		2	
5	Hey Jude (J. Lennon & P. McCartney) *	3	2						3		
6	How Deep Is the Ocean (I. Berlin) *				2			2			
7	I Didn't Know What Time It Was (R. Rodgers) *		3		3			3			
8	If I Should Lose You (L. Robin & R. Rainger)				4			4			
9	It Might As Well Be Spring (R. Rodgers) *	4	4	4				5		3	
10	It Never Entered My Mind (R. Rodgers)				5		2		4		
11	Mona Lisa (J. Livingston & R. Evans) *	5		5	6	1	3		5	4	3
12	My Funny Valentine (R. Rodgers) *					2					4
13	Never Let Me Go (J. Livingston & R. Evans) *					3			6		5
14	Norwegian Wood (J. Lennon & P. McCartney) *	6		6					7	5	
15	On Green Dolphin Street (N. Washington & B. Kaper) *	7	5					6			
16	Over the Rainbow (H. Arlen) *	8				4	4		8	6	
17	Smoke Gets in Your Eyes (J. Kern) *	9			7	5	5		9		
18	Stella by Starlight (V. Young) *	10	6		8	6		7			
19	The Nearness of You (H. Carmichael) *	11			9	7	6		10		6
20	You Are Too Beautiful (R. Rodgers)			7	10		7				7

* 演奏: 福田重男

- ・ シーンタイトルの下の数字は、各シーンでの曲順を示します。
- ・ 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

音色一覧

	ステレオ サンプリング	タッチ による 音の強弱	ダイナミック サンプリング (※1)	キーオフ サンプリング (※2)	音色のご紹介
G. PIANO 1 (グランドピアノ 1)	○	○	○	○	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。多段階のダイナミックサンプリング(※1)、ダンパーペダル使用時の音色変化、鍵盤を離れたときの微妙な発音まで、アコースティックピアノに極限まで近づけたぜいたくな音作りです。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
VARIATION (バリエーション)	○	○	○	○	暖かみのあるメロウなピアノの音です。クラシック音楽に最適です。
G. PIANO 2 (グランドピアノ 2)	○	○	—	—	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
VARIATION (バリエーション)	○	○	—	—	広がりのある明るいピアノの音です。ポピュラー、ロックなどの音楽に最適です。
E.PIANO 1 (エレクトリックピアノ 1)	—	○	○	—	FM シンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。
VARIATION (バリエーション)	—	○	—	—	ポピュラー音楽でよく耳にするシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
E.PIANO 2 (エレクトリックピアノ 2)	—	○	○	—	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
VARIATION (バリエーション)	—	○	○	—	異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。
HARPSI. (ハープシコード)	○	—	—	○	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
VARIATION (バリエーション)	○	—	—	○	オクターブ上の音がミックスされたハープシコードの音です。より華やかさが感じられます。
ORGAN 1 (オルガン 1)	○	—	—	—	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
VARIATION (バリエーション)	○	—	—	—	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。

	ステレオ サンプリング	タッチ による 音の強弱	ダイナミック サンプリング (※1)	キーオフ サンプリング (※2)	音色のご紹介
ORGAN 2 (オルガン 2)	—	—	—	—	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽で良く用いられます。
VARIATION (バリエーション)	—	—	—	—	エフェクトである回転スピーカー効果のスピードが異なり、バリエーションの方が速い効果の音です。また、押鍵中にバリエーション切り替えすると徐々にスピードが変化するしくみになっています。
STRINGS (ストリングス)	○	○	—	—	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
VARIATION (バリエーション)	○	○	—	—	立ち上がりの緩やかな広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノや電子ピアノとのデュアルに向いています。
VIB./GTR. (ビブラフォン/ギター)	○	○	○	—	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。
VARIATION (バリエーション)	—	○	—	—	暖かみのあるナチュラルなナイロンギターの音です。静かな曲で雰囲気を楽しんでください。
BASS (ベース)	—	○	—	—	アップライトベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。
VARIATION (バリエーション)	—	○	—	—	エレクトリックベースの音です。ジャズ、ロック、ポピュラーなどの音楽によく用いられます。

※1 ダイナミックサンプリングとは・・・

鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしたものです。より生楽器らしいダイナミックな表現を実現します。

※2 キーオフサンプリングとは・・・

鍵盤を離したときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

音色デモ曲一覧

音色	曲名	作曲者
G. PIANO 1(グランドピアノ 1)	森の情景 ピアノのための9つの小品より「森の入り口」	シューマン
HARPSI(ハープシコード)	ガボット	バッハ

上記デモ曲は、原曲から編曲/抜粋されています。

上記以外の曲は、オリジナル曲です(©2005 Yamaha Corporation)。

初期設定一覧

初期設定 (= 初めて電源を入れたときの設定) を一覧にしました。

項目	初期設定値
自動演奏鍵盤の対象パート (チャンネル) 設定	自動で判別する
オートソングリボイス	オン
音色選択	<small>グランドピアノ</small> G. PIANO 1
バリエーション	オフ
デュアル機能	オフ
スプリット機能	オフ
スプリット左側音色	<small>ベース</small> BASS
リバーブの種類	音色ごと
リバーブの深さ	音色ごと
タッチ感	ミディアム
メトロノーム	オフ
メトロノームの音量	(F11) 7 (F01) 5
メトロノームの拍子	0(無拍子)
テンポ	120
トランスポーズ	0
音の高さ (チューニング)	440.0Hz
デュアル音量バランス	音色の組み合わせごと
デュアルオクターブシフトの設定	音色の組み合わせごと
デュアルリバーブの深さ	音色の組み合わせごと
スプリットポイント	F#2
スプリット音量バランス	音色の組み合わせごと
スプリットオクターブシフトの設定	音色の組み合わせごと
スプリットリバーブの深さ	音色の組み合わせごと
スプリットダンパーペダルの有効域	右側音色
MIDI ミディ送信チャンネル	1
MIDI ミディ受信チャンネル	<small>オール</small> ALL
ローカルコントロール	オン
プログラムチェンジ送受信	オン
コントロールチェンジ送受信	オン

メッセージ一覧 (F11)

メッセージ*			メッセージ内容
0	0	1	USB フラッシュメモリー、またはメディアにアクセスできません。 ・ USB フラッシュメモリー、またはメディアが接続されていません。 → USB フラッシュメモリー、またはメディアを接続してください。 ・ メディアがフォーマットされていません。 → お使いのコンピューターで必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。 ・ 上記以外でこのエラーメッセージが繰り返し表示される場合は、 → 別の USB フラッシュメモリー、またはメディアをお使いください。
0	0	2	ソング(曲データ)を正常に読み取れません。
0	0	4	ソング(曲データ)が大きすぎて読み込めません。 プロテクトのかかったソング(曲データ)が読み取れません。
0	0	5	USB フラッシュメモリー、またはメディアがフォーマットされていません。 → お使いのコンピューターで必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。
0	0	6	プロテクトのかかったソング(曲データ)が読み取れません。
0	0	7	ソング(曲データ)がありません。 ファイルがありません。
0	0	8	USB フラッシュメモリー、またはメディアにアクセスできません。 ・ USB フラッシュメモリー、またはメディアが接続されていません。 → USB フラッシュメモリー、またはメディアを接続してください。 ・ メディアがフォーマットされていません。 → お使いのコンピューターで必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。
0	1	0	本体内部メモリーに保存できませんでした。
0	1	1	USB フラッシュメモリーのデータをリストア(復帰)できませんでした。 → [PLAY/STOP] ボタンを押して、再起動してください。
0	2	0	この USB フラッシュメモリーは、この楽器で使えません。 → 動作確認済の USB フラッシュメモリーをお使いください。
0	2	2	接続できる USB フラッシュメモリー、またはハブの数が制限を越えました。 → 「USB 記憶装置の取り扱いについて」をお読みください。
0	2	3	USB フラッシュメモリー、またはメディアの接続に失敗しました。
0	5	1	自動演奏鍵盤ユニットに問題があります。[MOVING KEY] ステータスランプが赤く点灯します。 → お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。
0	5	2	自動演奏鍵盤ユニットの温度が上がっています。[MOVING KEY] ステータスランプが赤く点滅します。 → 自動復帰します。
-	-	-	処理中です。
C	L	1	音色の設定を初期設定(電源を入れたときの設定)に戻しています。
C	L	2	インターネット設定を初期設定に戻しています。
C	L	3	初期設定に戻しています。
E	5	0	自動演奏鍵盤ユニットの電源に異常が発生しました。 [MOVING KEY] ステータスランプが赤く点灯します。 → 楽器の電源を切り、プラグを抜いてください。ただし、[USB] アクセ斯拉ンプが赤く点滅している場合は、アクセ斯拉ンプが消えてから電源を切ってください。お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。
E	n	d	処理が終わりました。

メッセージ*			メッセージ内容
F	C	L	処理中に電源を切ったので、本体内部メモリーが初期化されました。内部メモリーに保存したデータ、音色の設定、および録音した演奏データが消去されています。  「FCL」が表示されているときに電源を切らないでください。「FCL」が表示されているときに電源を切ると、楽器の動作が不安定になるおそれがあります。
F	U	L	ファイルやフォルダーの数が制限を越えました。
			本体内部メモリーに残容量がありません。
			メディアのメモリーに残容量がありません。
n	-	y	ファイルを上書きしますか？
P	r	o	メディアにライトプロテクトがかかっています。

*メッセージが3桁の数字(001～052)の場合、メッセージは「Err」と交互に表示されます。

*処理中を表すメッセージ(--)は、「-」→「--」→「---」→「-」…と表示されます。

メッセージ一覧 (F01)

メッセージ			メッセージ内容
C	L	r	楽器を基本設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻しています。
c	o	n	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しているときに表示されます。このメッセージが表示されているときは、楽器の操作ができません。
E	0	1	→ USBフラッシュメモリー、またはメディアにアクセスできません。 別のUSBフラッシュメモリー、またはメディアをお使いください。
E	0	2	ソング(曲データ)を正常に読み取れません。
E	n	d	処理が終わりました。
E	r	r	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しているときに、MIDI/USBケーブルを抜くと表示されます。
F	C	L	処理中に電源を切ったので、本体内部のメモリーが初期化されました。内部メモリーに保存したデータ、および録音した演奏データが消去されています。  「FCL」が表示されているときに電源を切らないでください。「FCL」が表示されているときに電源を切ると、楽器の動作が不安定になるおそれがあります。
F	U	L	ファイルやフォルダーの数が制限を越えました。
			本体内部メモリーに残容量がありません。
			メディアのメモリーに残容量がありません。
L	o	d	プロテクトがかかった曲をロードしています。
n		y	操作を実行しますか？
n	-	y	ファイルを上書きしますか？
P	r	o	メディアにプロテクトがかかっています。

各音色のプログラムチェンジナンバー

プログラムチェンジを 0 ~ 127 で設定する場合は、下記一覧のプログラムチェンジナンバーから 1 を引いた数で指定します。

たとえば、プログラムチェンジナンバー 1 のプログラムを指定する場合は、プログラムチェンジ = 0 になります。

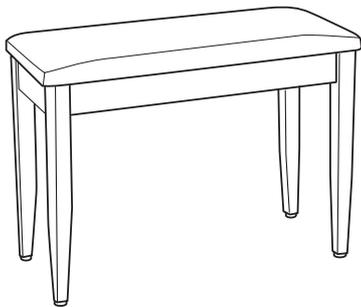
音色名	MSB	LSB	P.C.# (1 ~ 128)
G. PIANO 1	0	122	1
VARIATION	0	123	1
G. PIANO 2	0	112	1
VARIATION	0	112	2
E. PIANO 1	0	122	6
VARIATION	0	122	89
E. PIANO 2	0	122	5
VARIATION	0	123	5
HARPSL.	0	122	7
VARIATION	0	123	7

音色名	MSB	LSB	P.C.# (1 ~ 128)
ORGAN 1	0	123	20
VARIATION	0	122	20
ORGAN 2	0	122	17
VARIATION	0	123	17
STRINGS	0	122	49
VARIATION	0	125	50
VIB./GTR.	0	122	12
VARIATION	0	122	25
BASS	0	122	33
VARIATION	0	122	34

P.C.#=Program Change number

別売品の紹介

専用イス BC-103PE



ヘッドホン HPE-160

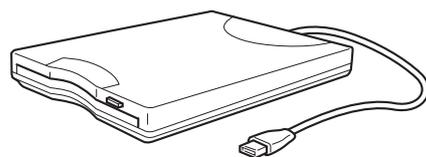


USB-MIDI インターフェース UX16



USBパソコンとMIDI機器を簡単に接続できるUSB-MIDIインターフェースです。

フロッピーディスクドライブ UD-FD01



フロッピーディスクを使うと、ディスク内のデータを本体に読み込むことができます。

仕様

モデル名		F11	F01
鍵盤		ナチュラルウッド (NW) 鍵盤 (白鍵に木材を使用)	
鍵盤数		88	
自動演奏鍵盤		○	—
音源		AWM ダイナミックステレオサンプリング	
最大同時発音数		128	64
音色数		10 × 2 バリエーション ソング再生用：480 XG ボイス、 13 ドラム/SFX キット、GM2、 GS	10 × 2 バリエーション
効果		リバーブ	
コントロール		デュアル、スプリット、メトロノーム、トランスポーズ、 タッチ (ハード/ミディアム/ソフト/フィクスト)、チューニング	
レコーダー		録音 / 再生 (1 曲) (USB 経由保存可)	
ペダル		ダンパー (ハーフペダル対応)、ソステヌート、ソフト	
デモ		ピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲 (プリセットソング)、 音色デモ曲	
インターネットダイレクト接続		[LAN] 端子使用、 無線 LAN イーサネットコンバー ター ([LAN] 端子使用)、 USB-LAN アダプター (USB[TO DEVICE] 端子使用)	—
記憶媒体 デバイス	フラッシュメモリー (内蔵)	約 2MB	約 512KB
	USB フラッシュメモリー	接続可 (USB [TO DEVICE] 端子使用)	
	フロッピーディスク (2HD, 2DD)	USB タイプフロッピーディスクドライブ接続可 (USB [TO DEVICE] 端子使用)	
	ハードディスク	USB タイプハードディスク接続可 (USB [TO DEVICE] 端子使用)	
	メモリーカード (スマートメディアなど)	USB タイプメモリーカードリーダー接続可 ([USB TO DEVICE] 端子使用)	
付属端子		[PHONES] 端子 × 2、AUX OUT [L/L+R] [R] 端子、AUX IN [L/L+R] [R] 端子、 MIDI [IN][OUT] 端子、USB [TO DEVICE] 端子	
		[LAN] 端子	—
メインアンプ		40W × 2	
スピーカー		16cm × 2、5cm × 2	
定格電源		AC 100V, 50/60Hz	
消費電力		117W	55W
寸法 [間口×奥行×高さ] (転倒防止金具を含む場合)		1427mm × 400mm × 995mm (1427mm × 480mm × 995mm)	
装備		キーカバー、譜面立て	
質量		90kg	76kg
付属品		保証書、取扱説明書 (本書)、 クイックオペレーションガイド (別冊)、電源コード	
		2P-3P 変換器	—

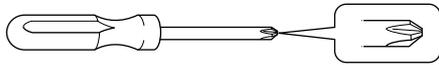
・仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。

組み立て

イラストは、F11を使用しています。

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ・ ネジは付属の指定サイズ以外のもは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

プラス (+) のドライバーを用意してください。



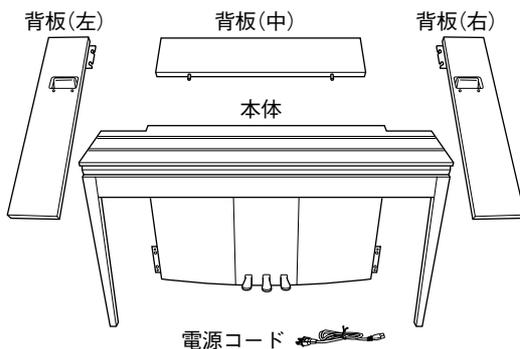
下記の部品を取り出します。

ネジセット

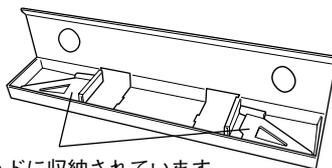
長いネジ(6×45mm) : 4本 ①



短いネジ(6×14mm) : 12本 ②



転倒防止金具 : 2個



梱包パッドに収納されています。

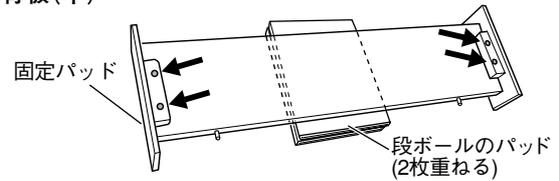
背板の準備

お買い上げ時、背板は輸送用の固定パッドにネジ留めされています。背板を固定パッドから外してから、組み立てを始めてください。

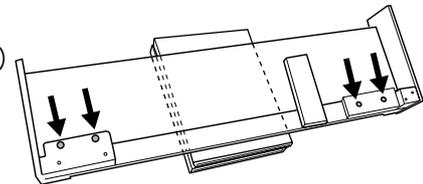
背板の外し方

背板の下に、背板の梱包箱に入っている段ボールのパッドを2枚重ねて敷いてから、図の位置のネジを外す。

背板(中)

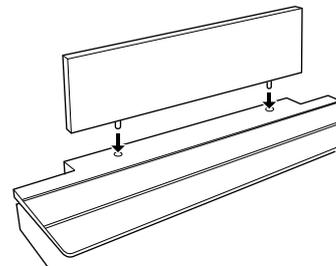


背板(左)、(右)



1 背板(中)を取り付けます。

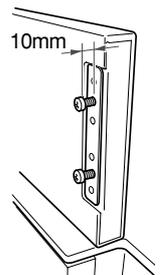
背板(中)のねじ穴のない面を鍵盤側に向け、図のように突起を本体上面の穴に差し込む。



背板(中)が本体に差し込まれた状態で、前後から力がかけないでください。背板(中)に付いている突起が折れて背板(中)が落下し、破損するおそれがあります。

2 背板(左)、(右)を取り付けます。

① 背板(中)の裏面両端に短いネジ(6×14mm) ② 2本ずつを、ネジがネジ穴から10ミリほど突き出るように軽く締める。このとき、ネジが簡単に外れないように注意する。

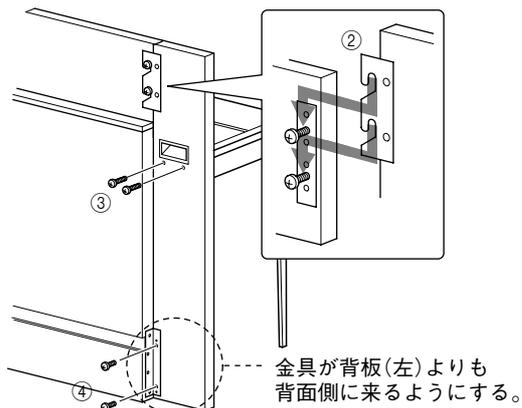


② ①で軽く締めたネジが緩んでいないのを確認してから、背板(左)の取っ手を背面側に向け、背板(左)の金具を図②のように溝に合わせてネジに差し込む。このとき、金具で背板(中)を傷つけないように注意する。

③ 背板(左)の取っ手の下にある穴を、長いネジ(6×45mm) ① 2本で軽く締める。

④本体下側の金具と背板（左）を短いネジ（6×14mm）

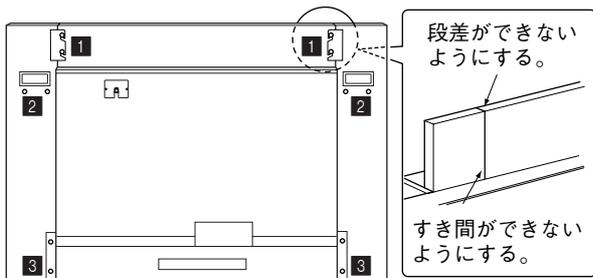
②2本で軽く締める。



⑤背板（右）も同様に取り付ける。

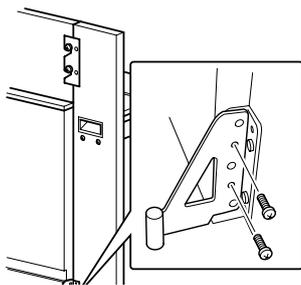
3 背板を固定します。

背板（中）と背板（左）、（右）の上面に段差ができないように、また前面にすき間ができないように注意して、図の順でネジをきつく締める。



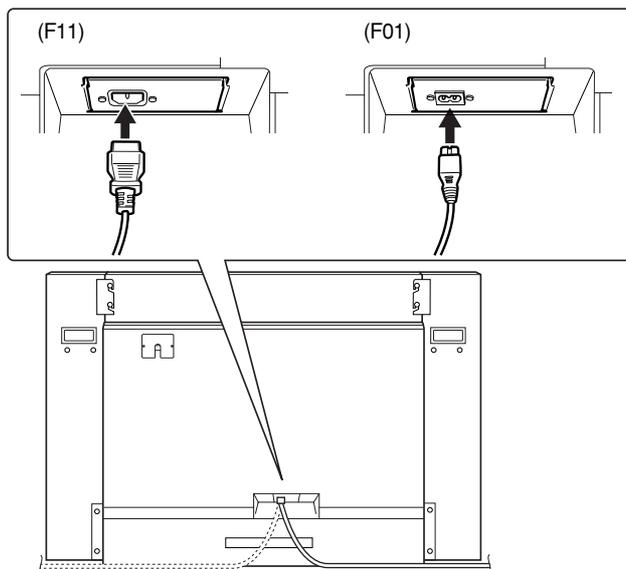
4 転倒防止金具を固定します。

本体裏板の側面にある金具の穴と転倒防止金具の上から2、4番めの穴を、図のように短いネジ（6×14mm）②2本で固定する。



5 電源コードを接続します。

本体背面にあるAC INLET端子に、電源コードのプラグを差し込む。

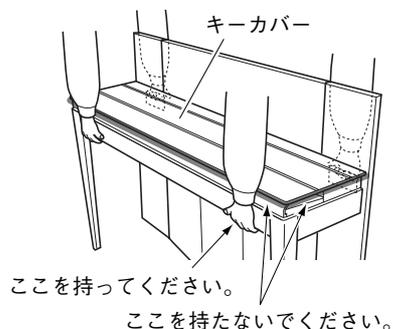


■ 組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがこの楽器にあたりませんか？
→この楽器を移動してください。
- この楽器がぐらぐらしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
→転倒防止金具を確実に取り付けてください。
- 電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

組み立て後、本体を移動するときは、必ず背面の取っ手と底面を持ってください。

⊘ キーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



ここを持ってください。

ここを持たないでください。

索引

数字・ABC 順

Numerics

2P-3P 変換器 (F11)	7, 14
2 音色の音量バランス (スプリット)	31
2 音色の音量バランス (デュアル)	29

A

ALL(ディスプレイ表示)	17, 20
AWM ダイナミックステレオサンプリング	8

B

BGM オフモード	12
BGM モード	12

I

[INTERNET](F11)	12, 25
-----------------------	--------

M

MIDI	50
MIDI の受信チャンネル設定	51
MIDI の送信チャンネル	50
Muma	22

P

[PRESET 1]	12, 17
[PRESET 2]	12, 17

R

rnd(ディスプレイ表示)	17, 20
----------------------	--------

S

SMF フォーマット	21
Sxx(ディスプレイ表示)	17

U

[USB]	12, 20
USB 記憶装置	23
Uxx(ディスプレイ表示)	20

あいうえお順

い

インターネット設定 (F11)	42
インターネットダイレクト接続機能 (F11)	8, 39

お

オクターブシフト (デュアル)	29
オクターブシフト (スプリット)	31
音色一覧	60
音色デモ曲	27
音色デモ曲一覧	61
音色の設定 (F11)	30
音量 (ボリューム)	16

き

キーカバー	13
-------------	----

く

クイックオペレーションガイド	6
組み立て	67

こ

コントロールチェンジ	51
------------------	----

し

シーン	18
自動演奏鍵盤 (F11)	8, 12, 19
仕様	66
初期設定	19, 20
初期設定一覧	62

す

ストリーミング (F11)	25, 39
スプリット	30
スプリットポイント	30

そ

ソングオートリボイス (F11)	26
------------------------	----

た

第 2 音色のリバーブの深さ (F11)	29
タッチ	34
ダンパーペダルの有効域 (スプリット)	31

ち

チャンネル (インターネット)(F11)	25
チューニング	34

て

ディスプレイ	11
データのバックアップ (F01)	55
データのバックアップ (F11)	52
データフォーマット	21
データリスト	6
デュアル	29
電源	15
電波強度 (F11)	43
テンポ	32

と

トランスポーズ	33
---------------	----

な

ナチュラルウッド (NW) 鍵盤	8
------------------------	---

は

バージョン (F11)	16
パート (F01)	22
パート (自動演奏鍵盤)(F11)	19
バリエーション	28

ひ

ピアノリスニングソング (Classic&Jazz) 50 曲	17
ピアノリスニングソング (Classic&Jazz) 50 曲一覧	58
左側音色のリバーブの深さ (F11)	31
拍子	32

ふ

付属品	7
譜面立て	14
プログラムチェンジ	51
プログラムチェンジナンバー	65
フロッピーディスク	24
フロッピーディスクドライブ	24

へ

ペダル	28
ヘッドフォン	16

み

ミュージックソフトダウンローダー	55
------------------------	----

め

メッセージ一覧	63
メトロノーム	32
メトロノームの音量	32
メモリー領域	38

も

モード	29
文字種	20

ら

ランダム再生	17
--------------	----

り

リストア (F01)	56
リストア (F11)	54
リバーブ	33

ろ

ローカルコントロール	51
録音	35

下記は、この楽器に入っているピアノ リスニング ソング (Classic&Jazz) 50 曲のうちの 17 曲の題名、作者名、著作権情報です。

Alfie

Theme from the Paramount Picture ALFIE
Words by Hal David
Music by Burt Bacharach
Copyright© 1966 (Renewed 1994) by Famous Music LLC
International Copyright Secured All Rights Reserved

B_same Mucho (Kiss Me Much)

Music and Spanish Words by Consuelo Velazquez
English Words by Sunny Skylar
Copyright© 1941, 1943 by Promotora Hispano Americana de Musica, S.A.
Copyrights Renewed
All Rights Administered by Peer International Corporation
International Copyright Secured All Rights Reserved

Bewitched

from PAL JOEY
Words by Lorenz Hart
Music by Richard Rodgers
Copyright© 1941 (Renewed) by Chappell & Co.
Rights for the Extended Renewal Term in the U.S. Controlled by Williamson Music and WB Music Corp. o/b/o The Estate Of Lorenz Hart
International Copyright Secured All Rights Reserved

Hey Jude

Words and Music by John Lennon and Paul McCartney
Copyright© 1968 Sony/ATV Songs LLC
Copyright Renewed
All Rights Administered by Sony/ATV Music Publishing, 8 Music Square West, Nashville, TN 37203
International Copyright Secured All Rights Reserved

How Deep Is The Ocean (How High Is The Sky)

Words and Music by Irving Berlin
Copyright© 1932 by Irving Berlin
Copyright Renewed
International Copyright Secured All Rights Reserved

I Didn't Know What Time It Was

from TOO MANY GIRLS
Words by Lorenz Hart
Music by Richard Rodgers
Copyright© 1939 (Renewed) by Chappell & Co.
Rights for the Extended Renewal Term in the U.S. Controlled by Williamson Music and WB Music Corp. o/b/o The Estate Of Lorenz Hart
International Copyright Secured All Rights Reserved

If I Should Lose You

from the Paramount Picture ROSE OF THE RANCHO
Words and Music by Leo Robin and Ralph Rainger
Copyright© 1935 (Renewed 1962) by Famous Music LLC
International Copyright Secured All Rights Reserved

It Might As Well Be Spring

from STATE FAIR
Lyrics by Oscar Hammerstein II
Music by Richard Rodgers
Copyright© 1945 by WILLIAMSON MUSIC
Copyright Renewed
International Copyright Secured All Rights Reserved

It Never Entered My Mind

from HIGHER AND HIGHER
Words by Lorenz Hart
Music by Richard Rodgers

Copyright© 1940 (Renewed) by Chappell & Co.
Rights for the Extended Renewal Term in the U.S. Controlled by Williamson Music and WB Music Corp. o/b/o The Estate Of Lorenz Hart
International Copyright Secured All Rights Reserved

Mona Lisa

from the Paramount Picture CAPTAIN CAREY, U.S.A.
Words and Music by Jay Livingston and Ray Evans
Copyright© 1949 (Renewed 1976) by Famous Music LLC
International Copyright Secured All Rights Reserved

My Funny Valentine

from BABES IN ARMS
Words by Lorenz Hart
Music by Richard Rodgers
Copyright© 1937 (Renewed) by Chappell & Co.
Rights for the Extended Renewal Term in the U.S. Controlled by Williamson Music and WB Music Corp. o/b/o The Estate Of Lorenz Hart
International Copyright Secured All Rights Reserved

The Nearness Of You

from the Paramount Picture ROMANCE IN THE DARK
Words by Ned Washington
Music by Hoagy Carmichael
Copyright© 1937, 1940 (Renewed 1964, 1967) by Famous Music LLC
International Copyright Secured All Rights Reserved

Never Let Me Go

from the Paramount Picture THE SCARLET HOUR
Words and Music by Jay Livingston and Ray Evans
Copyright© 1956 (Renewed 1984) by Famous Music LLC
International Copyright Secured All Rights Reserved

Norwegian Wood (This Bird Has Flown)

Words and Music by John Lennon and Paul McCartney
Copyright© 1965 Sony/ATV Songs LLC
Copyright Renewed
All Rights Administered by Sony/ATV Music Publishing, 8 Music Square West, Nashville, TN 37203
International Copyright Secured All Rights Reserved

Smoke Gets In Your Eyes

from ROBERTA
Words by Otto Harbach
Music by Jerome Kern
Copyright© 1933 UNIVERSAL - POLYGRAM INTERNATIONAL PUBLISHING, INC.
Copyright Renewed
All Rights Reserved Used by Permission

Stella By Starlight

from the Paramount Picture THE UNINVITED
Words by Ned Washington
Music by Victor Young
Copyright© 1946 (Renewed 1973, 1974) by Famous Music LLC
International Copyright Secured All Rights Reserved

You Are Too Beautiful

from HALLELUJAH, I'M A BUM
Words by Lorenz Hart
Music by Richard Rodgers
Copyright© 1932 (Renewed) by Chappell & Co.
Rights for the Extended Renewal Term in the U.S. Controlled by Williamson Music and WB Music Corp. o/b/o The Estate Of Lorenz Hart
International Copyright Secured All Rights Reserved

下記は、この楽器に入っているピアノリスニングソング(Classic&Jazz) 50曲のうちの3曲の題名、作者名、著作権情報です。

Composition Title : ON GREEN DOLPHIN STREET
Composer's Name : Bronislaw Kaper0372642
Owner's Name : EMI MUSIC PUBLISHING LTD

Composition Title : EMILY
Composer's Name : Johnny Mandel0258202
Owner's Name : EMI MUSIC PUBLISHING LTD

Composition Title : OVER THE RAINBOW
Composer's Name : Harold Arlen0286708
Owner's Name : EMI MUSIC PUBLISHING LTD

All Rights Reserved, Unauthorized copying, public performance and broadcasting are strictly prohibited.

MEMO

MEMO

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お持込み窓口)

◆修理のご依頼 / 修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理ご相談センター

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～19:00、
土曜日 9:00～17:30
(祝祭日および弊社休業日を除く)

ナビダイヤル(全国共通番号)  0570-012-808

※ 一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053)463-1127

◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45
(祝祭日および弊社休業日を除く)

* お電話は、電気音響製品修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543

札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内

FAX (011)512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1

京浜トラックターミナル内14号棟A-5F

FAX (03)5762-2125

浜松サービスステーション

〒435-0016

浜松市東区和田町200 ヤマハ(株)和田工場内

FAX (053)462-9244

名古屋サービスセンター

〒454-0058

名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F

FAX (052)652-0043

大阪サービスセンター

〒564-0052

吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F

FAX (06)6330-5535

九州サービスステーション

〒812-8508

福岡市博多区博多駅前2丁目11-4

FAX (092)472-2137

* 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

国内営業本部 ピアノ企画部 企画グループ

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

TEL 03-5488-6795

PA・DMI事業部

EKBマーケティング部 CL・PKグループ

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

TEL 053-460-3275

クラビノーバ・ポータブル楽器 インフォメーションセンター

受付日:月曜日～土曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)

受付時間:10:00～18:00(土曜日は10:00～17:00)

フリーダイヤル  **0120-834-808**

(IP電話、携帯電話などからおかけになる場合TEL 053-460-5272)

サポート:<http://www.yamaha.co.jp/support/>

電子ピアノ/キーボードのホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイー klub

<http://www.music-eclub.com/>

お客様サポート&サービス

<http://www.yamaha.co.jp/support/>

●名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。